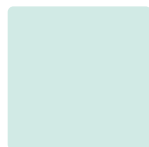


本体各部の名前と役割を説明
周辺機器を選ぶ、つなぐときのポイントを紹介！
本体の詳しいスペックを巻末に収録

パソコン機能ガイド



パソコンの機能や周辺機器でできる

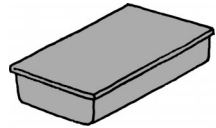
パソコン活用例

ここでは、このパソコンの機能や周辺機器でできる、便利な使い方を紹介しています。

外出先で使用する

このパソコンは、外出先などコンセントがない場所でも、バッテリーの電源のみで使用できます。

このとき、バッテリー残量に注意してください。バッテリーのみでパソコンを使っているときにバッテリー残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れることがあります。電源ランプ(Ⓞ)でバッテリー残量をこまめに確認(p.30)し、バッテリー残量が少なくなったら、バッテリーを充電しましょう(p.32)。自動的に省電力状態になるように設定しておく(p.31)と、消費電力を節約できるため、より長い時間バッテリーの電源のみでパソコンを使用できるようになります。



バッテリーパックについて →PART1 の「バッテリー」

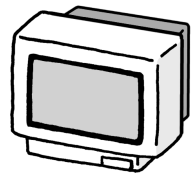
消費電力を抑える →PART1 の「省電力機能」

DVDを大きな画面で楽しむ

パソコンに市販のディスプレイを接続して、DVDの迫力ある映像を大きな画面で楽しむことができます。

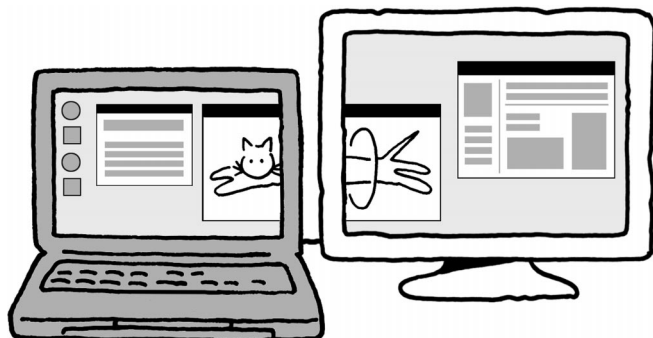
市販のディスプレイを接続する

→PART1 の「表示機能」「外部ディスプレイと連携させる」



デスクトップを広く使う

ソフトをいくつも起動したり、ファイルをいくつも開いていると、デスクトップがせまく感じる場合があります。そんなときには、「デュアルディスプレイ機能」(p.69)が便利。このパソコンの液晶ディスプレイと市販のディスプレイを連続した1つのディスプレイとして使うことができるため、デスクトップが広くなり操作しやすくなります。






「デュアルディスプレイ機能」について

→PART1 の「表示機能」-「外部ディスプレイと連携させる」

表記について

記号

 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼び方

LaVie C	LC900/LC700を指します。
DVD-RAM/R/RWモデル	DVD-RAM/R/RWドライブを搭載しているモデルです。

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

記載内容

- ・本文中に記載されているCD/DVDドライブは、DVD-RAM/R/RWドライブを指します。
- ・本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「BIOS SETUP UTILITY」と表示されます。
- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。





ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows XP	次のいずれかを指します。 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1 Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows ME	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版
インターネット エクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 1
アウトルックエクス プレス、 Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
Outlook 2003	Microsoft® Office Outlook® 2003
RecordNow DX	Sonic RecordNow DX
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 6 SE Basic
PCGATE Personal	PCGATE Personal Ver2.1
WinDVD	InterVideo® WinDVD™ 4 for NEC
VirusScan	McAfee VirusScan Online
BeatJam	BeatJam for NEC

このマニュアルに出てくる基本的な操作

キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【 】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードの  を押すことを表しています。
【Ctrl】+【Alt】+【Del】	 と  を押しながら同時に  を押すことを表しています。

「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「」で囲んで記載しています。

記載例	意味
「スタート」すべてのプログラム」「アクセサリ」「システムツール」「システムの復元」をクリックする	「」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

「デバイス マネージャ」の開き方

次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

- 1 「スタート」「コントロールパネル」をクリックする
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする
「パフォーマンスとメンテナンス」が表示されます。
- 3 「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 「デバイス マネージャ」をクリックする
「デバイス マネージャ」が表示されます。

:セーフモードでWindowsを起動した場合は、表示されません。



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータには、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。認証番号は次のとおりです。

通信機器	認証番号
モデム	A02-0604JP
トリプルワイヤレスLAN	D03-0431JP

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用の際は、他国モードに設定してご使用になりますと電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード(初期値)が「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD/DVDドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windowsは本機でのみご利用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、およびCD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、Windows、Outlook、Office ロゴおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.またはユーリードシステムズ株式会社の商標または登録商標です。

インテル、Intel、Pentium、Intel SpeedStepはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、RADEONは、ATI Technologies Inc.の商標です。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPLは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

Sonic RecordNowは、米国Sonic Solutionsの登録商標です。


PCGATEは、日本電気株式会社の登録商標です。

McAfee、VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の登録商標です。

InterVideo、InterVideoロゴ、WinDVDはInterVideo, Inc.の商標または登録商標です。

「BeatJam」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

SDロゴは商標です。

"Memory Stick"("メモリースティック")、"MagicGate Memory Stick"("マジックゲートメモリースティック")および  はソニー株式会社の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC Personal Products,Ltd. 2003

日本電気株式会社、NECパーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

このパソコンの機能	1
本体各部の名称	2
LaVie C	2
NXパッド	4
名称と役割	4
スクロールボタンを使う	5
キーボード	6
キーの名称	6
キーの使い方	7
ワンタッチスタートボタン	10
ボタンの名称と役割	10
ワンタッチスタートボタンの設定をする	10
ワンタッチスタートボタンを使用するときの注意	11
CD/DVDドライブ	12
使用できるディスク	12
ディスクを取り扱うときの注意	13
CD/DVDドライブを使用するときの注意	14
ディスクのセットのしかたと取り出し方	14
ディスクを読み込む(再生する).....	17
ディスクに書き込む	18
他のドライブやプレーヤーでディスクを読み込むときの注意 ...	21
フロッピーディスクドライブ	22
使用する前に	22
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方	24
デュアルメモリスロット	26
使用する前に	26
「SDメモリーカード」・「メモリースティック」の セットのしかたと取り出し方	27
バッテリー	29
バッテリーを上手に使うコツ	29
バッテリー残量について	30
バッテリーを充電する	32
バッテリーリフレッシュについて	33
バッテリーパックを交換する	34
バッテリーパックのリサイクルについて	36

省電力機能	37
省電力機能について	37
省電力機能を利用するときの注意	38
省電力状態にする	39
省電力状態から復帰する	40
省電力機能の設定をする	41
LAN(ローカルエリアネットワーク)	44
LANコネクタを使ってできること	44
LANケーブルを接続する	44
ネットワークの設定について	46
LANを使用するときの注意	49
トリプルワイヤレスLAN	50
トリプルワイヤレスLAN機能の紹介	50
トリプルワイヤレスLAN機能のセキュリティ	52
トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフ	53
トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた	54
トリプルワイヤレスLAN機能の設定を行う	55
トリプルワイヤレスLANを使用するときの注意	55
モデム	56
電話回線に接続する	56
モデムを使う	58
モデムを使用するときの注意	59
サウンド機能	60
音量を調節する	60
音楽CDからのデジタル出力設定	60
オーディオ機器を接続する	61
サウンドの設定をする	64
表示機能	65
画面表示を調整する	65
便利な表示機能	66
外部ディスプレイと連携させる	67
セキュリティ機能	70
不正使用やデータの盗難を防ぐ(パスワード)	70
ウイルスや不正侵入を防ぐ	72
盗難を防ぐ(セキュリティケーブル)	73

パソコンにつなぐ	75
このパソコンに取り付けることができる周辺機器	76
周辺機器を使用するときのポイント	79
周辺機器を選ぶときのポイント	79
周辺機器をはじめて接続するときのポイント	80
周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント	82
USBコネクタ	83
USBコネクタについて	83
USB対応機器の取り付け方と取り外し方	83
IEEE1394コネクタ	86
IEEE1394コネクタについて	86
IEEE1394対応機器の取り付け方と取り外し方	86
PCカードスロット	89
PCカードについて	89
PCカードのセットのしかたと取り出し方	89
メモリスロット	92
このパソコンで使える増設RAMボード	92
増設RAMボードを取り扱うときの注意	92
増設RAMボードの取り付け方と取り外し方	92
シリアルコネクタ / パラレルコネクタ	96
機器を取り付け / 取り外しするときの注意	96
シリアルコネクタ	96
パラレルコネクタ	96
マウス / テンキーボード用コネクタ	97
機器を取り付け / 取り外しするときの注意	97
マウス / テンキーボード用コネクタ	97

付 録	99
BIOSセットアップユーティリティ	100
BIOSセットアップユーティリティの使い方	100
購入時の値に戻す	101
仕様一覧	102
本体仕様一覧	102
FAXモデム仕様一覧	106
LAN仕様一覧	107
トリプルワイヤレスLAN仕様一覧	108
索 引	109

P A R T

1

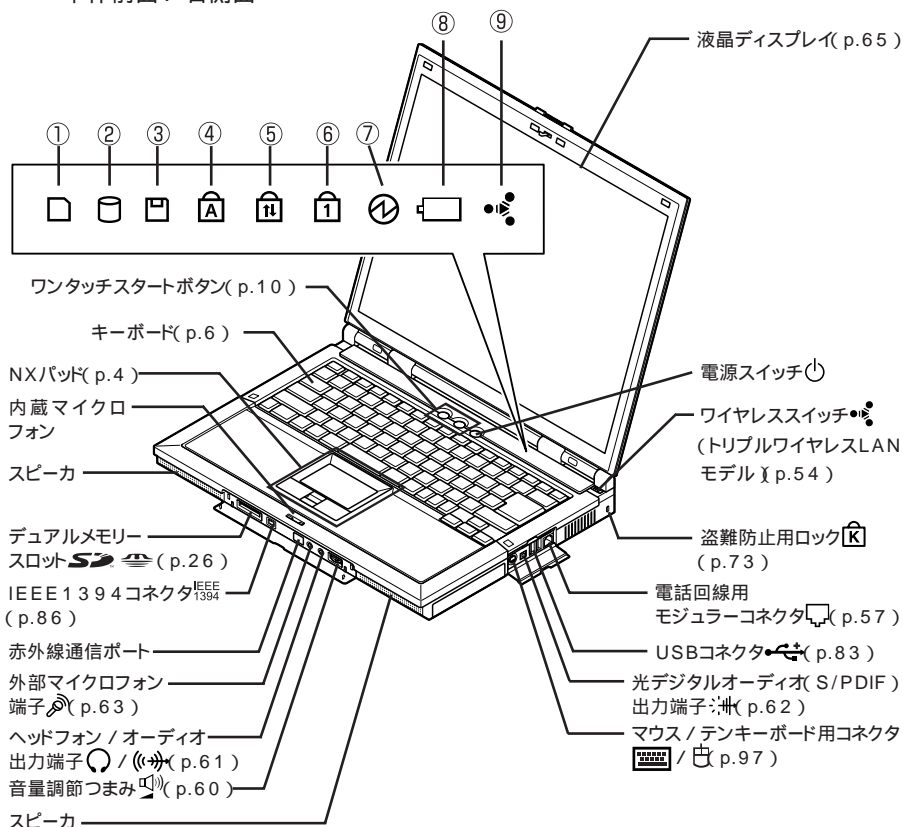
このパソコンの機能

本体各部の名称

お使いのモデルによって、各部の位置や形状が多少異なる場合があります。

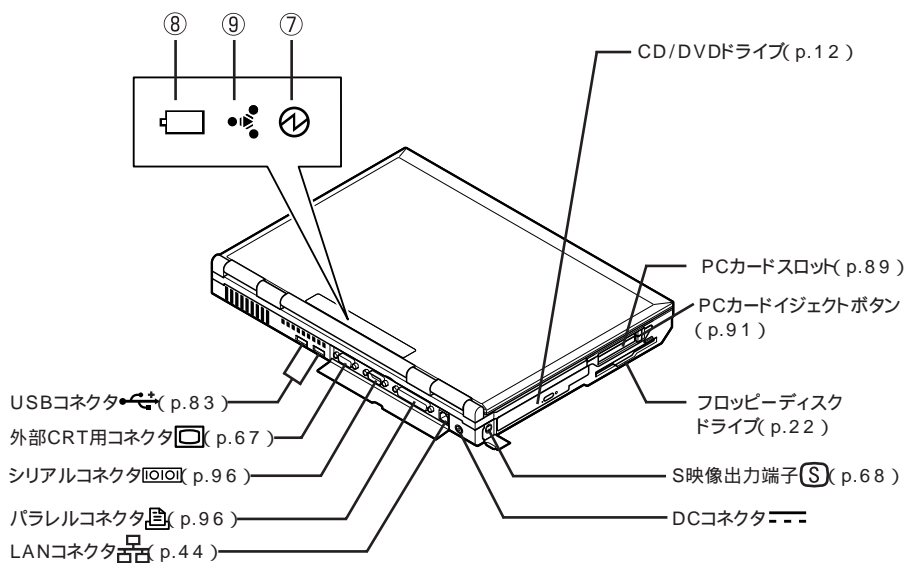
LaVie C

本体前面 / 右側面

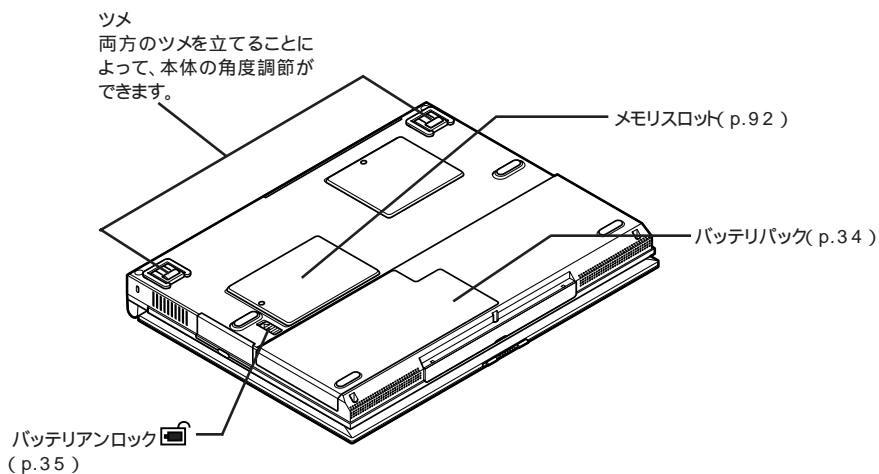


①	デュアルメモリー スロットアクセスランプ	⑥	ニューメリックロックキーランプ
②	アクセスランプ	⑦	電源ランプ
③	フロッピーディスクアクセスランプ	⑧	バッテリ充電ランプ
④	キャップロックキーランプ	⑨	ワイヤレスランプ(トリプルワイヤレス LANモデルのみ)
⑤	スクロールロックキーランプ		

本体背面 / 左側面





本体底面



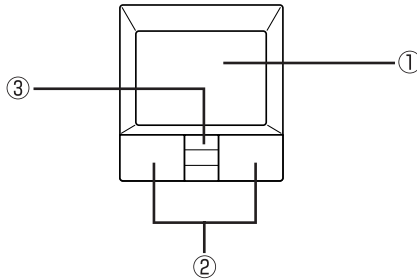
NXパッド


メモ

NXパッドの操作は、このパソコンに入っている「パソコンのいろは」で練習できます。「パソコンのいろは」については、「 ばそガイド」「パソコンの練習と基本」「練習」をご覧ください。




パッドを指先でなぞると、画面上のポインタが動きます。ソフトを起動したり、アイコンや画面を動かしたりなどの操作が行えます。

名称と役割



番号	名称	機能
①	パッド	ここを指先でなぞると、ポインタ  が動きます。
②	クリックボタン	左右2つのボタンがあります。左側のボタンは主に操作の決定などに使います。右側のボタンはポインタが示す場所に関連するメニューを表示するときなどに使います。
③	スクロールボタン	画面に内容を表示しきれないときに、上下に動かすことで画面の表示範囲を変え(スクロール)、隠れている部分を表示できます。

参照

- ・NXパッドの使い方について  「ばそガイド」「パソコンの練習と基本」「お助け操作集」「マウス/NXパッド」「NXパッドの使いかた」
- ・NXパッドをより使いやすく設定する  「ばそガイド」「パソコンの練習と基本」「使いこなしのヒント」「パソコンを快適に使うために」「マウス/NXパッドを使いやすく」または  「ばそガイド」「パソコンの設定」「パソコンの機能」「NXパッドの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面の表示範囲を上下方向に変えたり(スクロール)画面の内容を拡大または縮小表示できます。

チェック

- ・ スクロールボタンの機能に対応していないソフトでは使えません。
- ・ ズーム機能は、画面の内容を拡大または縮小表示できるソフトで使えます。
- ・ ソフトによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

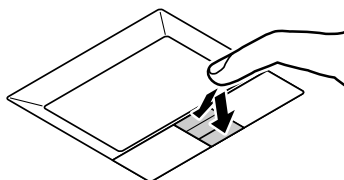
画面の表示範囲を上下方向に変える(スクロール)

1 上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す

パッド側を押すと画面の表示範囲が上方向に、手前側を押すと画面の表示範囲が下方向に変わります。

また、スクロールボタンを押したままにすると、画面の表示範囲が連続して上下方向に変わります。



画面の内容を拡大または縮小表示する(ズーム機能)

1 拡大または縮小表示したい画面にポインタを動かす

2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す

パッド側を押すと画面の内容が拡大表示され、手前側を押すと縮小表示されます。

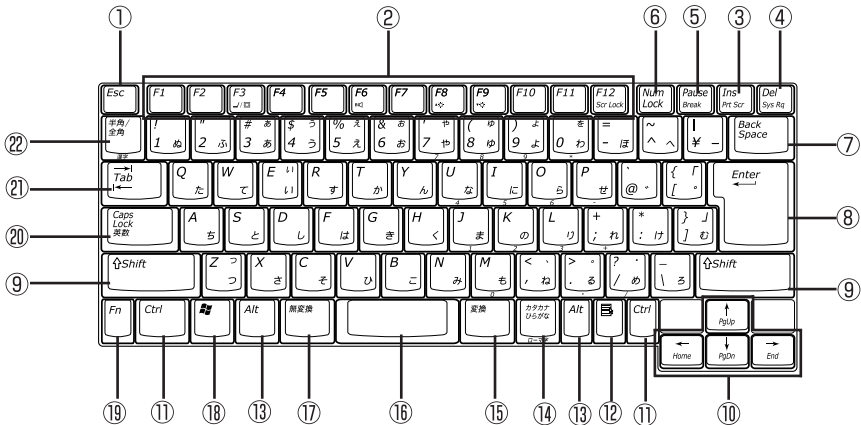
キーボード

メモ

キーボードの操作は、このパソコンに入っている「パソコンのいろは」で練習できます。「パソコンのいろは」については、『[ばさガイド](#)』『パソコンの練習と基本』『練習』をご覧ください。

各キーの名称と一般的な役割について説明します。また、他のキーと組み合わせることで、パソコンの設定を変更したり、キーの役割を変更できる、特殊なキーについても説明します。

キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ③【Ins】: インサートキー
- ④【Del】: デリートキー
- ⑤【Pause】: ポーズキー
- ⑥【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑦【Back Space】: バックスペースキー
- ⑧【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑨【Shift】: シフトキー
- ⑩【**⏪** **⏩** **↔**】: カーソル移動キー
- ⑪【Ctrl】: コントロールキー
- ⑫【**🖱**】: アプリケーションキー
- ⑬【Alt】: オルトキー
- ⑭【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑮【変換】: 変換キー
- ⑯スペースキー
- ⑰【無変換】: 無変換キー
- ⑱【**🇺🇸**】: Windowsキー
- ⑲【Fn】: エフエヌキー
- ⑳【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑【Tab】: タブキー
- ㉒【半角/全角】: 半角/全角キー

キーの使い方



キーボードの設定は、「スタート」」「コントロールパネル」」「プリンタとその他のハードウェア」」「キーボード」をクリックすると表示される、「キーボードのプロパティ」ウィンドウで行います。また、「日付、時刻、地域と言語のオプション」」「地域と言語のオプション」」「言語」タブの「詳細」ボタンをクリックすると表示される、「テキストサービスと入力言語」ウィンドウでも行うことができます。



キーボードをより使いやすく設定する 「ばそガイド」」「パソコンの練習と基本」」「使いこなしのヒント」」「効率的な操作方法」」「キー操作を楽に」,または 「ばそガイド」」「パソコンの設定」」「パソコンの機能」」「キーボードの設定」

日本語入力の方法を切り替える特殊なキーについて

キー操作	説明
【半角/全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン/オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。












キーのロックについて

【Num Lock】と【Caps Lock】がロックされているかいないかで、入力できる文字は変わります。

キー操作	説明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー前面に黄色で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字を入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットの大文字を入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットの小文字を入力できるようになります。

アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーは、ソフトによってどのように機能するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

キー操作	説 明
【  】アプリケーションキー)	右クリックしたときと同じ状態になります。
【  】Windowsキー)	Windowsの「スタート」メニューを表示します。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウすべてをボタンにしてタスクバーに表示します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でタスクバーにボタン表示しているウィンドウを元の大きさに戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを起動します。
【  】+【E】	「マイ コンピュータ」ウィンドウを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

【Fn】(エフエヌキー)について

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定を変更したり、キーの役割を変えることができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え(⏪/⏩)	市販の外部ディスプレイやテレビを接続しているときに、パソコンの画面を表示するディスプレイを切り替えます(p.69)。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮(ディスプレイストレッチ機能)	液晶ディスプレイの解像度よりも低い解像度でWindowsを使用しているときに、液晶ディスプレイ全体に画面を拡大表示する/しないを切り替えます(p.66)。
【Fn】+【F6】	ピープ音のオン/オフ(🔊)	ピープ音のオン/オフを切り替えます。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲🔆)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが明るくなります(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼🔆)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが暗くなります(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割をします。
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割をします。
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割をします。
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割をします。
【Fn】+左【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割をします。
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割をします。
【Fn】+【  】	Page Up	【PgUp】の役割をします。
【Fn】+【  】	Page Down	【PgDn】の役割をします。
【Fn】+【  】	Home	【Home】の役割をします。
【Fn】+【  】	End	【End】の役割をします。





メモ

【Fn】+【F6】、【Fn】+【F12】の設定については、パソコンを起動するたびに設定しなおす必要があります。

ワンタッチスタートボタン

押すだけでソフトを起動できるボタンを「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。このパソコンには、【インターネット】ボタンと【メール】ボタンの2つのワンタッチスタートボタンがあります。


ボタンの名称と役割

表示	ボタンの名称	説明
	【インターネット】ボタン	「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」を起動するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」またはインターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。
	【メール】ボタン	電子メールのソフトを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook 2003(アウトルック 2003)」、「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」またはインターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。

ワンタッチスタートボタンの設定をする

【インターネット】ボタンや【メール】ボタンを押したときに起動するソフトなどの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で変更できます。



ワンタッチスタートボタンの設定を変更する  ばそガイド、「パソコンの設定」「パソコンの機能」「ワンタッチスタートボタンの設定」または「スタート」「すべてのプログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

ワンタッチスタートボタンを使用するときの注意

- ・ セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンは使えません。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したソフトが起動しない場合があります。
このような場合は、次のどちらかの設定を行ってください。
 - 「スタート」コントロールパネル」パフォーマンスとメンテナンス」電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の をクリックして にする
 - 「スタート」コントロールパネル」ユーザーアカウント」ユーザーアカウント」ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の をクリックして にする
- ・ パソコンの電源を切った状態からソフトを起動させる場合、ユーザーアカウントを複数設定していると、ログオン画面でユーザーを選ぶ必要があります。また、パスワードを設定している場合は、ログオンユーザーのパスワードを入力する必要があります。

CD/DVDドライブ

ここでは、このパソコンのCD/DVDドライブで使えるディスクの種類や取り扱いするときの注意、ディスクのセットのしかたなどについて説明します。

使用できるディスク

このパソコンのCD/DVDドライブで使えるディスクは、次のとおりです。

ディスク ドライブ	音楽CD、ビデオCD、 フォトCD、CD-ROM	CD-R、 CD-RW	DVD-ROM (DVD-Video)	DVD-R、 DVD-RW	DVD-RAM
DVD-RAM/ R/RW ドライブ					

読み込み・書き込み可
読み込みのみ可(書き込み不可)

: 片面2.6GバイトのDVD-RAMおよび、両面5.2GバイトのDVD-RAMは、読み込みのみ可(書き込み、フォーマット不可)なお、カートリッジから取り出せないタイプのDVD-RAMは利用できません。

それぞれのディスクの特徴は、次のとおりです。

規格	概要
CD-ROM	パソコンで見るための情報が入っているCDです。このパソコンで使えるのは「Windows 95」,「Windows 98」,「Windows Me」,「Windows 2000」,「Windows XP」対応のCD-ROMで、「Macintosh専用」のものは使えません。
CD-R CD-RW	データを書き込むことができるCDです。CD-RWはCD-Rとは異なり、データを繰り返し書き換えることができます。
音楽CD	一般の音楽CDのことです。
ビデオCD	音声と動画が記録されたCDです。
フォトCD	写真画像が記録されたCDです。
DVD-ROM	CD-ROMの約7倍(片面一層の場合)の量のデータを記録できるディスクです。百科事典や地図が記録されているものなどがあります。
DVD-Video	映画やドキュメンタリーが高画質、高音質で記録されているDVDです。
DVD-R DVD-RW DVD-RAM	データを書き込むことができるDVDです。DVD-RWはDVD-Rとは異なり、データを繰り返し書き換えることができます。


 メモ

- ・ Windows 2000対応のほとんどのCD-ROMは、Windows XPで使うことができます。Windows 95/98/Me対応のCD-ROMは、Windows XPで使えるものとそうでないものがあります。ご購入前に確認してください。
- ・ MacintoshでもWindowsでも使えるように作られた「ハイブリッドCD」というCDもあります。

 チェック

- ・ このパソコンではDVD+R、DVD+RWは使用できません。
- ・ このパソコンでは、規格外のCD、DVDは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因となる場合があります。
 - 名刺型、星型等の円形ではない、異形ディスク
 - 厚さが薄いDVD
 - 規格外に容量の大きな書き込み媒体
など

また、コピーコントロールCDについても、正式なCD規格に準拠しない特殊なディスクであり、パソコンでの再生および、ハードディスクなどへの保存等の動作は保証しかねます。

- ・ このパソコンで音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す[CD ロゴ]()マークの入ったディスクを使用してください。
- ・ CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。

ディスクを取り扱うときの注意

- ・ 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- ・ ディスクにラベルを貼ったり、傷を付けたりしないでください。また、ラベル面に文字を書く場合には、ペン先の柔らかいもの(フェルトペン等)で書くようにしてください。
- ・ 上に重いものを載せたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ・ 汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けて拭いてください。
- ・ 清掃するときは、CD専用のスプレーをお使いください。
- ・ ベンジン、シンナーなどで拭かないようにしてください。
- ・ ゴミやホコリの多い場所での使用は避けてください。
- ・ 直射日光のあたる場所や、温度の高い場所に保管しないでください。



使用後は、収納ケースに入れるようにしてください。

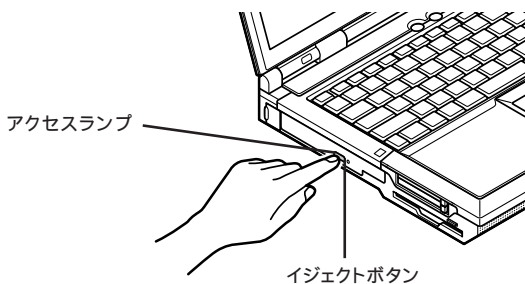
CD/DVDドライブを使用するときの注意

- ・ CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。
- ・ ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因となります。

ディスクのセットのしかたと取り出し方

ディスクをセットする

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



チェック

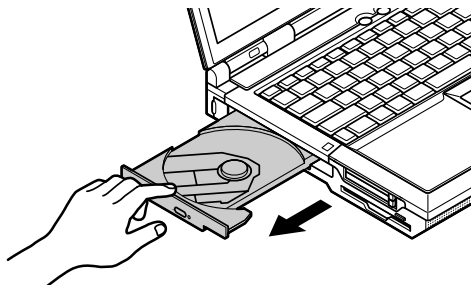
- ・ ディスクトレイの出し入れは、本体の電源が入っているときにしかできません。
- ・ 停電やソフトの異常な動作などが原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが飛び出さない場合に、ディスクトレイを無理に引き出すとするとCD/DVDドライブが壊れることがあります。



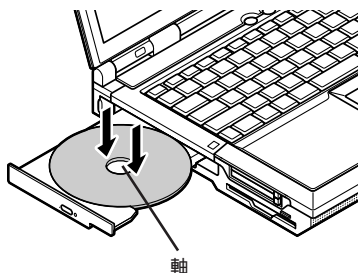
参照

イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合 『困ったときのQ&A』PART2の「CD/DVDドライブ」

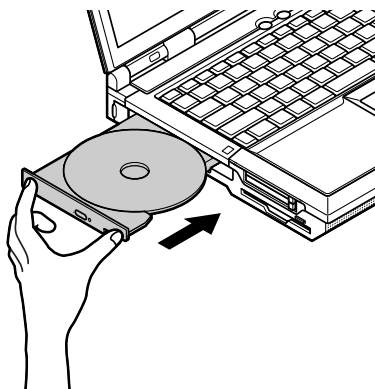
2 ディスクトレイを静かに引き出す



- 3 ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む



- 4 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



ディスクを取り出す

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。

チェック

- ・ ディスクへのアクセス中(アクセスランプ点灯時)は、ディスクを取り出さないでください。
- ・ ディスクトレイの出し入れは、本体の電源が入っているときにしかできません。
- ・ 停電やソフトの異常な動作などが原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが飛び出さない場合に、ディスクトレイを無理に引き出そうとするとCD/DVDドライブが壊れることがあります。

参照

イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合 『困ったときのQ&A』PART2の「CD/DVDドライブ」

- 2 ディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す

チェック

ディスクトレイからディスクを取り出すときに、ディスクを落としたり、傷を付けたりしないように注意してください。

- 3 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを読み込む(再生する)


音楽CDを再生する

このパソコンにインストールされている「BeatJam」で音楽CDを再生できます。

チェック

このパソコンでは、音楽CDのデジタル再生のみサポートしています。アナログ再生はサポートしていません。

参照


「BeatJam」の使い方について  「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または 「スタート」 「すべてのプログラム」 「JUSTSYSTEM アプリケーション」 「BeatJam」 「BeatJamのマニュアル」

DVD-Videoディスクを再生する

このパソコンにインストールされている「WinDVD」でDVD-Videoディスクを再生できます。

また、パソコンに市販のディスプレイを接続すれば、DVD-Videoディスクの映像を大きな画面で楽しむことができます。

参照

- ・「WinDVD」の使い方について  「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または 「WinDVD」のヘルプ
- ・市販のディスプレイを接続する このPARTの「外部ディスプレイと連携させる」(p.67)

チェック

このパソコンでは、リージョンコード(国別地域番号)が2またはフリーに設定されているDVD-Videoディスクのみ再生することができます。

ディスクに書き込む


DVD-R、DVD-RW、CD-RやCD-RWにデータを書き込む

このパソコンにインストールされている「RecordNow DX」を使うと、DVD-R、DVD-RW、CD-RやCD-RWにデータを書き込んだり、音楽CDなどから好きな曲を集めてCD-Rに書き込んで、オリジナル音楽CDを作ったりできます。

チェック

- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、DVD-ROM、DVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。
- コピーコントロールCDなど、一部の音楽CDではオリジナル音楽CDを作成できない場合があります。
- 書き込みを行う前には必ず、他のソフトは終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。また、書き込み中に省電力状態にならないように設定してください。
- 書き込みに失敗したディスクは再生できなくなります。書き損じによるディスクの補償はできませんので、注意してください。
- 作成したディスクのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のドライブでは使用できない場合がありますので、注意してください。

参照

- 「RecordNow DX」について  「パソコンガイド」『アプリケーションの紹介と説明』50音別目次」
- 自動的に省電力状態にならないように設定する このPARTの「省電力機能」の「省電力機能の設定をする」(p.41)

DVD-RAMにデータを書き込む

DVD-RAMへのデータを書き込みには「DVD-RAM用ドライバーソフト」が必要です。このソフトにより、ハードディスクやフロッピーディスクと同様に、ファイルの書き込みや削除が可能になります。

チェック

- このパソコンのCD/DVDドライブで、DVD-RAMメディアを使用するときは、カートリッジなしのタイプを使うか、メディア取り出し可能なカートリッジタイプでメディアを取り出してお使いください。
- このパソコンのCD/DVDドライブは、片面2.6Gバイト / 両面5.2GバイトのDVD-RAMメディアへの書き込み、書き換えには対応していません。

DVD-RAMを利用する設定にする

DVD-RAMを利用するためには、次の手順で設定を行ってください。設定を行わない場合、CD-R/RWへの書き込みが優先され、DVD-RAMは利用できません。

- 1 「スタート」 「マイコンピュータ」 をクリックする
- 2 CD/DVDドライブのアイコンを右クリックする
- 3 表示されたメニューの「プロパティ」 をクリックする
- 4 「書き込み」 をクリックする
- 5 「このドライブでCD書き込みを有効にする」 が になっていることを確認する
 になっていた場合は、 をクリックして にしてください。
- 6 「OK」 をクリックする

DVD-RAMをフォーマットする

フォーマットされていないDVD-RAMにデータを書き込むにはフォーマットが必要です。次の手順でフォーマットを行ってください。

- 1 CD/DVDドライブに、フォーマットするDVD-RAMメディアをセットする
- 2 「スタート」 「すべてのプログラム」 「DVD-RAM」 「DVD-RAM ドライバー」 「DVDForm」をクリックする
次の画面が表示されます。



- 3 「フォーマット種別」と「ボリュームラベル」の項目を設定して「開始」をクリックする
フォーマット確認の画面が表示されます。
- 4 「はい」をクリックする
フォーマットがはじまります。
- 5 フォーマットが終了して、次の画面が表示されたら「OK」をクリックする



- 6 [X]をクリックして画面を閉じる

他のドライブやプレーヤーでディスクを読み込むときの注意

CD-RやCD-RWを他のCD-ROMドライブで読み込むときの注意

CD/DVDドライブでデータを書き込んだCD-RやCD-RWを、他のCD-ROMドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したソフトによっては注意が必要があります。詳しくは、ソフトに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。また、CD-RやCD-RWによっては、お使いのCD-ROMドライブでは読み込めない場合があります。マルチリード対応のCD-ROMドライブであれば、読み込むことができます。マルチリード対応のCD-ROMドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。

他のDVDプレーヤーでメディアを読み込むときの注意

このパソコンのCD/DVDドライブは、次の規格に対応しています。

- ・ DVD-R for General Ver.2.0
- ・ DVD-RW Ver.1.1

このパソコンのCD/DVDドライブで書き込みをしたDVD-RメディアやDVD-RWメディアは上記の規格に準拠したDVDプレーヤーで再生できます。

また、上記の規格に準拠したDVDレコーダーで録画したDVD-RメディアやDVD-RWメディアを、このパソコンのCD/DVDドライブで再生することもできます。

チェック

- ・ 「VRモード」で録画したDVD-RメディアおよびDVD-RWメディアをこのパソコンで再生するには、対応ソフトを別途購入する必要があります。
- ・ 書き込みに使用するソフトによっては、他のDVDプレーヤーなどで再生できるようにするために注意が必要な場合があります。詳しくは使用するソフトのマニュアルをご覧ください。
- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、DVD-ROM、DVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等についての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。

フロッピーディスクドライブ

ここでは、このパソコンで使えるフロッピーディスクの種類や取り扱いときの注意、フロッピーディスクのセットのしかたについて説明します。

使用する前に


使用できるフロッピーディスク

このパソコンでは、1.44Mバイト、1.2Mバイト、720Kバイトでフォーマット¹されたフロッピーディスクを使用できます。²

- 1: フロッピーディスクなどをパソコンで使える状態にする作業のことで、「初期化」ともいいます。フォーマットされていないフロッピーディスクには何も保存できません。
- 2: 1.2Mバイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります。また、1.2Mバイト、720Kバイトでフォーマットされたフロッピーディスクは、読み書きすることはできますが、フォーマットすることはできません。



参照

フロッピーディスクのフォーマット  『ばそガイド』『トラブル解決』『Step 2 カテゴリー別Q&A』『フロッピーディスク』『Q フロッピーディスクをフォーマットしたい』またはWindowsのヘルプ

フロッピーディスクを取り扱うときの注意

磁石に注意

フロッピーディスクが壊れると大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。特に注意していただきたいのは磁石です。フロッピーディスクは、磁力で情報を記録しているので、磁石を近づけると、簡単に内容が消えてしまいます。

磁石はテレビやスピーカにも使われています。これらの上にフロッピーディスクを置いたりしないようにしてください。また、ホワイトボードの磁石なども要注意です。

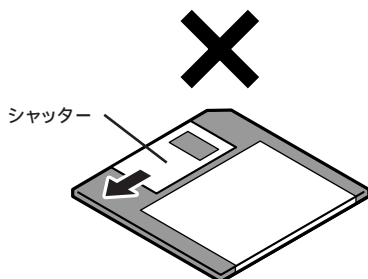


メモ

フロッピーディスクの取り扱いに関する一般的な注意については、フロッピーディスクのケースに入っている説明書をご覧ください。

その他の注意

- ・ シャッターを開けて、中のディスクには触れないでください。



- ・ ラベルに鉛筆で記入したり、消しゴムを使ったりしないでください。
- ・ ラベルは正しい位置に貼ってください。また、2枚以上の重ね貼りは行わないでください。
- ・ 飲食、喫煙しながら使わないでください。
- ・ 溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
- ・ ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。
- ・ 汚れたフロッピーディスクは使わないでください。
- ・ クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
- ・ 使わないときは収納箱に入れて保管してください。
- ・ 上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
- ・ 直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。

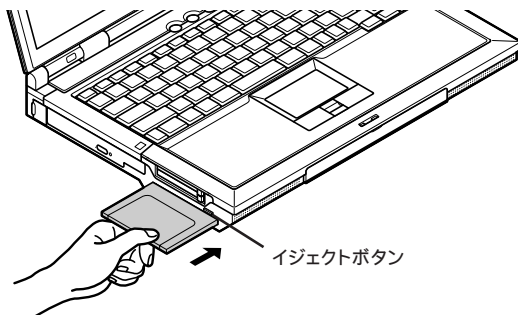
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- ・ PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・ ディスクのコピーを行う場合、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・ フォーマットしていないフロッピーディスクを使用すると、処理に時間がかかる場合があります。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

フロッピーディスクをセットする

- 1 ラベル面を上にして、カチッと音がするまでフロッピーディスクを水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



チェック

フロッピーディスクをセットするときは、ディスクを曲げないように、まっすぐに入れてください。

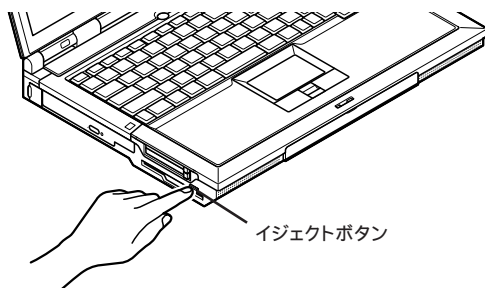
フロッピーディスクを取り出す

！チェック

- ・ フロッピーディスクを取り出すときは、必ずフロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認してください。フロッピーディスクアクセスランプが点灯(あるいは点滅)しているときに取り出すと、フロッピーディスクやフロッピーディスクドライブの故障や、データの不具合の原因になります。
- ・ フロッピーディスクを取り出すときは、ディスクを曲げないように、まっすぐに取り出してください。

1 イジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し飛び出します。



2 フロッピーディスクを水平に引き出す

デュアルメモリースロット

このパソコンでは、「SDメモリーカード」や「メモリースティック」を使うことができます。

使用する前に

「SDメモリーカード」「メモリースティック」でできること

Windows上のファイルをコピーする


Windows上で作成したファイルを「SDメモリーカード」や「メモリースティック」に保存することができます。

音楽CDの曲を保存する

音楽CDの曲を「SDメモリーカード」や「メモリースティック」に保存することができます。

チェック

- ・ 音楽データによっては利用できない場合があります。
- ・ 著作権保護が必要なデータを扱う場合、「SDメモリーカード」を使用する必要があります。「マジックゲートメモリースティック」の著作権保護機能には対応していません。また、「メモリースティック」では使用できません。

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なWindows上のファイルは、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」などで扱うことができます。音楽CDの曲や著作権保護が必要なデータを「SDメモリーカード」に保存する場合は、「BeatJam[SD Memory Card Option]」を使用します。詳しくは「 ばそガイド」アプリケーションの紹介と説明」50音目次」をご覧ください。

チェック

インターネットの音楽配信サイトなどから購入した音楽データは、「BeatJam[SD Memory Card Option]」を使って「SDメモリーカード」に保存することはできません。

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」を使用するときの注意

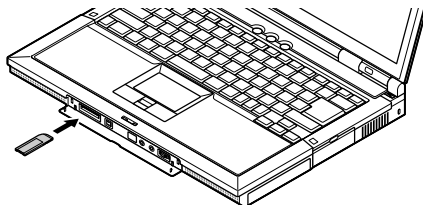
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所では「SDメモリーカード」や「メモリースティック」を使わないでください。
- ・ 「メモリースティック」は、標準フォーマットとして専用のFATフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。
フォーマット(初期化)が必要な場合は、「メモリースティック」マジックゲートメモリースティック」専用機器でフォーマットを行うことをおすすめします。
- ・ 「SDメモリーカード」は、標準フォーマットとしてSDメモリーカード規格準拠のフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。
フォーマットが必要な場合は、SD Audio Playerなどの「SDメモリーカード」専用機器か、SD規格対応のソフトでフォーマットを行うことをおすすめします。
- ・ このパソコンは、SD I/Oには対応していません。
- ・ このパソコンのデュアルメモリスロットでは、マルチメディアカードを使うこともできますが、すべての動作を保証するものではありません。
マルチメディアカードの種類や取り扱い方については、米国SANDISK社のホームページをご覧ください。
- ・ 「メモリースティック」「SDメモリーカード」の取り扱いについては、各メモリーカードに添付の取扱説明書の指示にしたがってください。
- ・ パソコンや「SDメモリーカード」・「メモリースティック」の不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の保証はいたしかねます。
- ・ あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」のセットのしかたと取り出し方

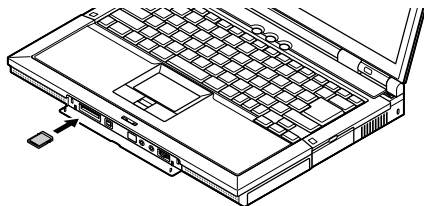
「SDメモリーカード」・「メモリースティック」のセットのしかた

- 1 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」の向きに注意して、デュアルメモリスロットに奥までしっかり差し込む

- ・ 「メモリースティック」の場合



- ・「SDメモリーカード」の場合

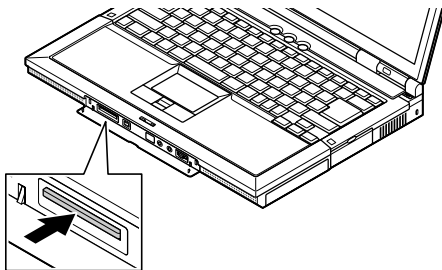


「SDメモリーカード」「メモリースティック」の取り出し方

● チェック

デュアルメモリスロットアクセスランプ(□ p.2)点灯中は、絶対に「SDメモリーカード」や「メモリースティック」を取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

- 1 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」を押す
「SDメモリーカード」または「メモリースティック」が飛び出します。



- 2 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」を水平に引き抜く

バッテリー

このパソコンは、コンセントがない場所でもバッテリーの電源のみで使用できます。バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間は、パソコンを使用する環境にもよりますが、約1時間30分です。

バッテリーを上手に使うコツ

パソコンを使っていて、気が付かないうちに何時間も経っていたということはよくあります。でもバッテリー残量に注意してください。バッテリーの電源のみでパソコンを使っているときにバッテリー残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れることがあります。

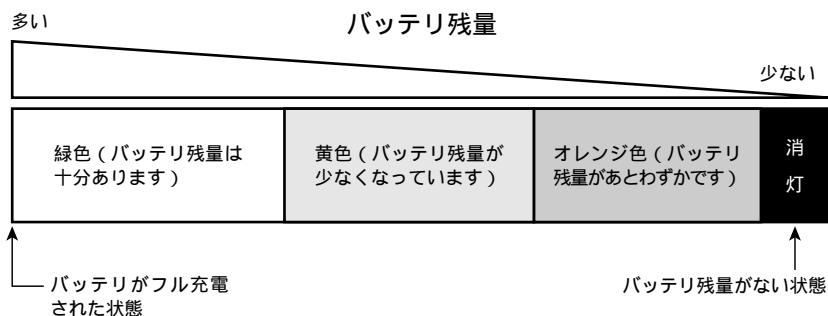
このようなことを防ぐために、バッテリーの電源のみでパソコンを使うときには、こまめにバッテリー残量を確認し(p.30)、残量が少なくなったらバッテリーを充電しましょう(p.32)。バッテリー残量が少なくなったときに、音やテキストでバッテリー残量を知らせたり、自動的に省電力状態になるようにあらかじめ設定しておく(p.31)こともできます。

また、バッテリーは、使いつづけていくうちに、フル充電してもバッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリーリフレッシュを行う(p.33)ことでバッテリーの性能を回復できます。バッテリーリフレッシュを行ってもバッテリーの性能が回復しないときは、新しいバッテリーパックに交換する(p.34)ことをおすすめします。

バッテリー残量について

バッテリー残量を確認する

バッテリーの電源のみでパソコンを使っているときは、電源ランプ(①)の状態でのバッテリー残量を確認できます。



：「緑色」「黄色」「オレンジ色」「消灯」は、電源ランプの状態を表します。電源ランプが「黄色」「オレンジ色」「消灯」のときは、バッテリーを充電しましょう(p.32)。

：パソコン本体がスタンバイ状態のときは、電源ランプは点滅します(バッテリー残量がない場合を除く)。

：バッテリー残量が少ないままバッテリーの電源のみでパソコンを使い続けると、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示された後、しばらくすると自動的に休止状態(p.37)になり、電源ランプが消灯します。

パソコンの電源が入っているときは、次の方法でバッテリー残量を確認することもできます。

画面右下の通知領域で確認する

🔊の上にポインタを合わせると、バッテリー残量が表示されます。また、🔊をダブルクリックすると、バッテリーについての詳しい情報が表示されます。

「電源オプションのプロパティ」で確認する

1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリーの状態を確認できます。

バッテリー残量が少なくなったときには

バッテリー残量が少なくなったときは、次のどちらかの操作を行ってください。

ACコンセントが使えないとき

使えるACコンセントが近くにない、ACアダプタを持ってきていないなどの理由で、すぐにACコンセントを使用できないときは、使用中のソフトを終了して、パソコンの電源を切ってください。

ACコンセントが使えるとき

ACアダプタを持っていて、使えるACコンセントが近くにあるときは、パソコンにACアダプタを接続してバッテリーを充電してください。詳しくは、次ページの「バッテリーを充電する」をご覧ください。

バッテリー残量が少なくなったときの動作を設定する

バッテリーのみでパソコンを使用しているときに、バッテリー残量が少なくなったり、残りわずかになったときのパソコンの動作を設定できます。

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないとき(バッテリー低下アラーム)と、バッテリー残量が残りわずかなとき(バッテリー切れアラーム)のがになっていることを確認する
になっている場合、になっているアラームは動作しません。
- 4 「アラームの動作」をクリックする
表示されるウィンドウで、次の項目を設定できます。
 - ・ 通知方法
音やテキストでバッテリー残量を知らせるかどうかを設定できます。
 - ・ アラームの動作
「アラーム後のコンピュータの動作」の左のをクリックしてにすると、設定したバッテリー残量になったときの動作をスタンバイ、休止状態、シャットダウンから選べます。になっている場合は何もしません。
 - ・ プログラムの実行
「アラーム時に、このプログラムを実行する」の左のをクリックしてにすると、設定したバッテリー残量になったときにプログラムを実行できます。「プログラムの構成」を押して、実行するプログラムの設定をしてください。
- 5 「OK」をクリックする

バッテリーを充電する

バッテリーを充電するときの注意

- ・ バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ できるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない状態で少量の充放電を繰り返すと、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ 購入直後や長期間放置したバッテリーは、必ずフル充電してから使用してください。

バッテリー充電のしかた

バッテリーパックをパソコンに取り付けて、ACアダプタをACコンセントに接続してください。自動的にバッテリーの充電が始まります。バッテリーがフル充電されるまでには、パソコンを使用する環境にもよりますが、約2時間40分かかります。



バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。

バッテリーが充電中かどうかは、バッテリー充電ランプ()で確認できます。

バッテリー充電ランプ

バッテリー充電ランプの状態	バッテリーの充電状態
オレンジ色に点灯している	バッテリー充電中
オレンジ色に点滅している	バッテリーのエラー
消灯している	ACアダプタが接続されていない、または充電完了



バッテリー充電ランプが点滅しているときは、バッテリーパックを取り付け直してください。



バッテリーパック、ACアダプタを取り付ける 『はじめにお読みください』の「接続しよう」

バッテリーリフレッシュについて

バッテリーは、使いつづけていくうちに、フル充電してもバッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリーリフレッシュを行うことでバッテリーの性能を回復できます。

バッテリーリフレッシュを行うのは、次のようなときです。

- ・ バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が、以前よりも短くなったとき
- ・ 購入直後や長期間放置した後で、バッテリーの性能が一時的に低下しているとき
- ・ バッテリーの残量表示に誤差が生じているとき

バッテリーリフレッシュを行う

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 バッテリーリフレッシュを行いたいバッテリーパックをパソコンに取り付ける
- 3 パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに差し込む
バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリーパックを取り付けなおしてください。
- 4 バッテリーをフル充電する
バッテリーがフル充電されると、バッテリー充電ランプが消灯します。
- 5 BIOSセットアップユーティリティを起動する(p.100)
- 6 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 7 「標準設定」メニューで【】を押して「バッテリーリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す
- 8 「バッテリーリフレッシュを実行しますか？」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
バッテリーリフレッシュがはじまります。

チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
また、バッテリーリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリーリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。
電源が切れたら、ACアダプタと電源コードを接続してバッテリーをフル充電してください。

バッテリーリフレッシュを中断する

【Esc】を押すと中断を確認するメッセージが表示されます。「Cancel Battery Refresh」を選んでから【Enter】を押してください。バッテリーリフレッシュを中断してWindowsが再起動します。

◆メモ

- ・バッテリーリフレッシュ中に電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続した場合も中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合は、ACアダプタを取り外して「Continue Battery Refresh」を選んでください。
- ・電源スイッチを使って中断する場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。

バッテリーパックを交換する

バッテリーリフレッシュを行ってもバッテリーの性能が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

このパソコンで使用できる交換用バッテリーパック


このパソコンに取り付けることのできる交換用のバッテリーパックは、次の表のとおりです。

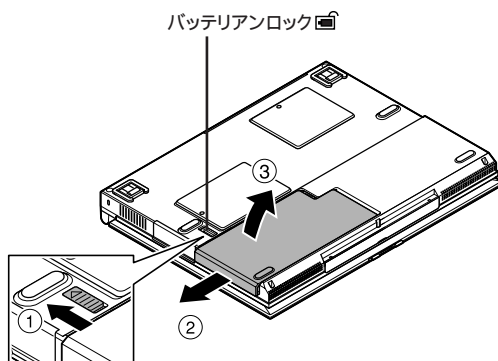
品名	型番
バッテリーパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP49

バッテリーパックの交換をするときの注意

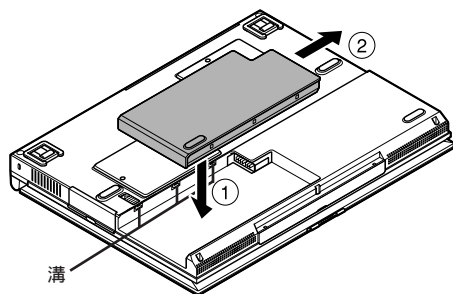
- ・バッテリーやバッテリースロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・休止状態またはスタンバイ状態のままにバッテリーパックを交換しないでください。バッテリーパックの交換を行うときは、休止状態またはスタンバイ状態を解除してパソコンの電源を切ってください。
- ・特に必要でない限り、バッテリーパックを交換しないでください。故障の原因となります。

バッテリーパックの交換のしかた

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いて、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック()を矢印の方向にずらしたまま、バッテリーパックを矢印の方向へスライドさせ、取り外す



- 5 新しいバッテリーパックを取り付ける
バッテリーパックをゆっくり矢印の方向にスライドさせ、カチッと音がするまでしっかり取り付けます。



バッテリーパックのリサイクルについて

- ・ 本機はリチウムイオン電池を使用しています。
- ・ リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になった電池、および使用済みの製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火のおそれがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。
 - 個人ユーザ様: 充電式電池リサイクル協力店くらぶ
詳細は、電池工業会ホームページ (<http://www.baj.or.jp/>) をご覧ください。
 - 法人ユーザ様: NEC法人向け二次電池持ち込み拠点
詳細は、NEC環境ホームページ (http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/index_denchi.html) をご覧ください。
- ・ リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。
 - 製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
 - (社)電池工業会小型二次電池再資源化推進センターおよび充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
- ・ リサイクル時のご注意
 - 電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
 - 外装カバー(被膜・チューブなど)をはがさないでください。
 - 電池を分解しないでください。



省電力機能

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切ると、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかったりと手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を節約し、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。



メモ

バッテリーの電源のみでパソコンを使っているときは、バッテリーを効率よく使え、駆動時間を長くできます。

省電力機能について

省電力状態とは

省電力機能によってパソコンが消費電力を節約している状態を、省電力状態と呼びます。省電力状態には、「スタンバイ状態」と「休止状態」があります。また、これらをまとめて「スリープ状態」と呼ぶ場合もあります。

スタンバイ状態

パソコンの液晶ディスプレイやハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スタンバイ状態を解除すると、すぐに作業の続きをはじめることができます。少しの間、作業を中断する場合などに便利です。

休止状態

パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。休止状態を解除すると、休止状態にする前の状態から作業を続けることができます。

Windowsを終了していないので、Windowsの起動にかかる時間は短くなります。



メモ

ソフトによっては、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態のことを「ハイバネーション」、省電力状態から復帰することを「レジューム」と呼ぶことがあります。

省電力状態の確認

パソコンが省電力状態になっているかどうかは、電源ランプ(①)で確認できます。

電源ランプの状態	電源の状態
緑色に点滅している	スタンバイ状態
黄色に点滅している	スタンバイ状態で、バッテリー残量が少ない
オレンジ色に点滅している	スタンバイ状態で、バッテリー残量があとわずか
消灯している	電源が切れている、または休止状態

: バッテリーの電源のみでパソコンを使っているときに、バッテリー残量が少ないまま使い続けると、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示された後、しばらくすると自動的に休止状態になり、電源ランプが消灯します。




電源ランプが点灯しているときは、省電力状態になっていません。

省電力機能を利用するときの注意

省電力機能を利用できないとき

- ・ 次のようなときには、省電力機能を使用しないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、省電力状態から復帰するときに省電力状態にする前の内容を復元できなくなることがあります。また、自動的に省電力状態になる設定も行わないでください。
 - ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROMなどのディスクの読み書きをしているとき
 - 省電力状態に対応していないソフトや周辺機器を使用しているとき
 - 音声または動画ファイルを再生しているとき
 - プリンタへ出力しているとき
 - LANまたはワイヤレスLANでファイルコピーなどの通信作業をしているとき
 - 通信用のソフトを使用しているとき
 - 電話回線を使って通信しているとき
 - 「システムのプロパティ」が表示されているとき
 - Windowsの起動 / 終了処理中
- ・ NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultilmpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能が正常に動作しないことがあります。その場合は、「省電力機能の設定をする (p.41) をご覧になり、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

省電力状態にするときの注意

- ・ 省電力状態への移行中や、省電力状態のときに、フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスク、PCカードなどの周辺機器の入れ替えを行わないでください。
- ・ 省電力状態にする前に、フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスクを取り出してください。
- ・ 休止状態を利用する場合、ハードディスクにパソコンのメモリ容量分の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。確認のしかたについて詳しくは、「ばそガイド」 「トラブル解決」 「Step 2 カテゴリー別Q&A」 「省電力機能」 「Q スタンバイ状態または休止状態にできない」をご覧ください。

省電力状態にする

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、一定時間(このパソコンをコンセントに接続して使用しているときは20分、バッテリーの電源のみで使用しているときは5分)以上キーボードやNXパッドからの入力がないと、自動的にスタンバイ状態になります。

また、次の手順でスタンバイ状態にすることができます。

1 「スタート」 「終了オプション」をクリックする

2 「スタンバイ」をクリックする



メモ

次の操作でスタンバイ状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



参照

省電力機能の設定 「省電力機能の設定をする」(p.41)

休止状態にする

購入時の状態では、バッテリーの電源のみでこのパソコンを使用しているときに、15分以上キーボードやNXパッドからの入力がないと、自動的に休止状態になります。また、次の手順で休止状態にすることができます。

- 1 「スタート」「終了オプション」をクリックする
- 2 【Shift】を押したまま、「休止状態」をクリックする
【Shift】を押すと、「スタンバイ」が「休止状態」に切り替わります。



メモ

次の操作で休止状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



参照

省電力機能の設定 「省電力機能の設定をする」(p.41)

省電力状態から復帰する

省電力状態から復帰するときの注意

- ・ 省電力状態からの復帰中に、フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスク、PCカードなどの周辺機器の入れ替えを行わないでください。
- ・ 省電力状態から復帰するときにパスワードを入力するように設定している場合、パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力してください。
- ・ 省電力状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」をクリックしてください。警告が発生した機器は、そのまま使用できます。
- ・ タイマ、LAN、FAXモデムの自動受信操作でスタンバイ状態から復帰した場合、液晶ディスプレイに何も表示されないことがあります。その場合は、NXパッドがキーボードを操作してください。
- ・ 省電力状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないように、省電力状態になった後、5秒以上たってから操作してください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
ログオン画面が表示されます。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする

上記以外にも次の方法でスタンバイ状態から復帰できます。

液晶ディスプレイを開いて復帰する

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くとスタンバイ状態から復帰できます。

タスクを使って復帰する

タスクを使い、時刻を指定して復帰できます。



参照

タスクの使い方 Windowsのヘルプ

休止状態から復帰する

休止状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
「Windows を再開しています ...」と表示された後、ログオン画面が表示されません。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする
休止状態にする前の状態でWindowsが起動します。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源オプションのプロパティ」の画面で行います。省電力機能が働くまでの時間や、スタンバイ状態や休止状態にするための操作を設定することができます。



チェック

省電力機能の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

省電力状態になるまでの時間を設定する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 次の項目について、時間を設定する

状態	説明
モニタの電源を切る	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、液晶ディスプレイの電源が切れます。
ハードディスクの電源を切る	ここで指定した時間、ハードディスクへのアクセスがなかった場合、ハードディスクの電源が切れます。
システムスタンバイ	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンがスタンバイ状態になります。
システム休止状態	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンが休止状態になります。

チェック

スタンバイ状態にならないようにするには、「システムスタンバイ」で「なし」を選びます。休止状態にならないようにするには、「システム休止状態」で「なし」を選びます。

- 4 「適用」をクリックし、「OK」をクリックする

省電力状態にする操作を設定する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「詳細設定」タブをクリックする

3 「電源ボタン」欄で、それぞれの操作をしたときの動作を設定する

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
パソコンの液晶ディスプレイを閉じたときの動作を選びます。
- ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
パソコンの電源スイッチを押したときの動作を選びます。

状態	説明
何もしない	その操作をしても、何もしません。
入力を求める	「コンピュータの電源を切る」の画面が表示されます。動作を決定してください。
スタンバイ	スタンバイ状態にします。
休止状態	休止状態にします。
シャットダウン	Windowsを終了して、パソコンの電源を切ります。

：「コンピュータの電源ボタンを押したとき」のみ設定可能

チェック

休止状態を利用したくない場合は、「電源オプションのプロパティ」画面の「休止状態」タブをクリックして、「休止状態を有効にする」のをにしてください。

4 「適用」をクリックして、「OK」をクリックする

LAN(ローカルエリアネットワーク)

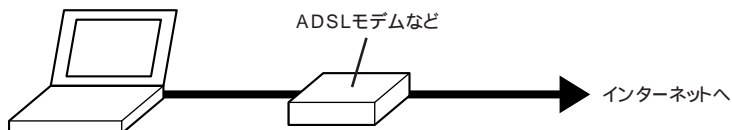
ADSL(エーディーエスエル)モデムやCATV(ケーブルテレビ)モデムなどをつないでブロードバンドでインターネットに接続したり、複数のパソコンや周辺機器をつないでネットワークを作ったりするときに使います。

LANコネクタを使ってできること

接続する機器によって次のようなことができます。

ブロードバンドでインターネットに接続する

ADSLモデムやCATVモデムなどをつないで、ブロードバンドでインターネットに接続できます。



ネットワークを作る

ネットワークを作ると、複数のパソコンでプリンタやファイルを共有できます。

市販のルータを使用すると、さらに複数のパソコンから同時にインターネットに接続することもできます。



メモ

パソコンと周辺機器との接続を無線にしたネットワーク(ワイヤレスLAN)もあります。このパソコンに市販の無線LANアダプタを取り付けて、ワイヤレスLANに対応した周辺機器を使います。

LANケーブルを接続する

LANコネクタと各機器との接続には、LANケーブルを使います。

接続するときの注意

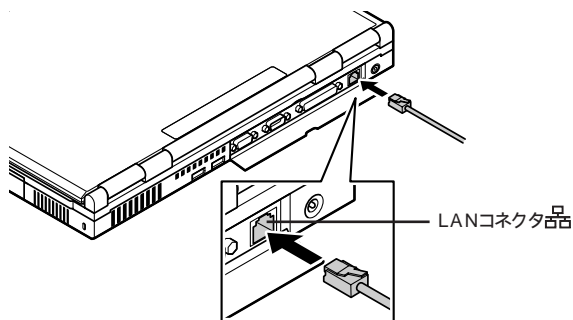
- ・ LANケーブルは別売です。
- ・ 接続するLANや機器の規格にあったLANケーブルを用意してください。
- ・ 100BASE-TXでLANに接続するためには、カテゴリ5のLANケーブルが必要です。

 チェック

LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。目的によって使用するケーブルが違うので、購入の際は注意してください。どちらのケーブルが必要かは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

接続のしかた

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを向きに注意して、パソコンのLANコネクタ(品)に接続する



- 3 LANケーブルのもう一方のプラグを、ADSLモデムやハブなどの機器のLANコネクタに接続する
詳しくは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。


ネットワークの設定について

ネットワークの設定をする

ADSLモデムやCATVモデム、ルータを使用してインターネットに接続するための設定については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。


ネットワークの設定は、次の方法で行います。

Windowsの「コントロールパネル」で設定する

- 1 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」→「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックする
「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。
- 2 画面の説明を読み、設定を行う
自分のパソコンのネットワーク環境に合わせて設定してください。
詳しくは、「ばそガイド」→「パソコンの設定」→「ネットワークの設定」→「LANの設定」をご覧ください。

「ホームネットワークアシスタント」で設定する

このパソコンに入っている「ホームネットワークアシスタント」を使って、ホームネットワーク(家庭内LAN)を利用するために、パソコンやパソコンに接続する機器の設定ができます。

詳しくは、「ばそガイド」→「パソコンの設定」→「ネットワークの設定」→「ホームネットワークアシスタント」をご覧ください。

チェック

「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」画面が表示されたら

インターネット接続の設定やネットワークの設定を行うと、次の「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されることがあります。



「PCGATE Personal」は、パソコンへのインターネットを経由した不正アクセスを防ぐことができるソフトです。インターネットやネットワークに接続したときに、この画面が表示されることがあります。この画面では、ネットワークのセキュリティレベルを設定できます。

設定のしかたについては、「ばそガイド」『インターネットと電子メール』「インターネットを使いこなす」『不正アクセスからパソコンを守るには』をご覧ください。

ネットワークの設定を行うと、「マイネットワーク」にお使いのパソコンの名前が表示されます。「スタート」>「マイコンピュータ」の「マイネットワーク」をクリックして確認してください。


設定を行った後でネットワークにうまく接続できないなどのトラブルが起きたときは、「ばそガイド」『トラブル解決』「Step 2 カテゴリー別Q&A」『ネットワーク(LAN)』をご覧ください。

参照

「PCGATE Personal」について このPARTの「パソコンへの不正侵入を防ぐ(PCGATE Personal)」(p.73) または 「ばそガイド」『アプリケーションの紹介と説明』「50音別目次」

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定をする

このパソコンをネットワークに接続している場合は、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。

詳しくは、「ばそガイド」『パソコンの設定』『ネットワークの設定』『LANの設定』をご覧ください。

チェック

- ・電源回復イベントが発生したときにパソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させるには、パソコンにACアダプタを取り付けて、コンセントからの電源で使用している必要があります。
- ・電源回復の設定をすると、購入時の状態にくらべてパソコンの消費電力が大きくなり、バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が短くなります。バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間を優先する場合は、電源回復の設定は行わないでください。

インターネットへの通信環境を切り替える


自宅ではADSL回線で常時接続、外出先では携帯電話でダイヤルアップ接続というように、複数のインターネット接続の設定を使い分けている場合は、「MobileOptimizer(モバイルオプティマイザー)」が便利です。

インターネットを使用する場所に応じた接続情報をあらかじめ登録しておくことで、インターネットを使いたい場所でスムーズに接続環境を切り替えることができます。

チェック

「MobileOptimizer」は、購入時にはインストールされていません。「ソフトナビゲーター」からインストールしてください。

参照

「MobileOptimizer」について  「ばそガイド」『アプリケーションの紹介と説明』『50音別目次』、または「スタート」『すべてのプログラム』『MobileOptimizer』『MobileOptimizerヘルプ』

LANを使用するときの注意

- ・ ネットワークを使用している間は、LANケーブルをパソコンや機器から取り外さないでください。
- ・ ネットワークとの通信中は、パソコンを休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ 100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、購入元や当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ バッテリーの電源のみでパソコンを使用しているときに、ネットワーク通信をすると、バッテリーの電源のみで使用できる時間が短くなります。長時間の通信をするときは、パソコンにACアダプタを取り付けて、コンセントからの電源で使用してください。

トリプルワイヤレスLAN

ここでは、トリプルワイヤレスLANモデルについての説明をしています。それ以外のモデルでワイヤレスLAN機能を使用する場合は、別売の機器が必要になります。

トリプルワイヤレスLAN機能の紹介

トリプルワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンのトリプルワイヤレスLAN機能と、5GHzまたは2.4GHzワイヤレスLAN対応機器を使用することで、次のようなことができます。

ワイヤレスでインターネットに接続

IEEE802.11a(5GHz)またはIEEE802.11b、IEEE802.11g(2.4GHz)のいずれかのワイヤレスLANに対応したADSLモデムなどの通信機器にトリプルワイヤレスLAN機能で接続すれば、パソコンにケーブルをつなぐことなくインターネットへのアクセスができます。

ワイヤレスLANネットワークを作る

トリプルワイヤレスLAN機能に対応したパソコンや機器でネットワークを作れば、ケーブルで接続したり、ディスクなどの媒体を使用しなくてもファイルのやりとりなどが可能です。2階のパソコンと1階のパソコンでファイルのやりとりをするなど、これまでのケーブル接続を必要としたLANでは少し面倒だったことも可能になります。

チェック

5GHzまたは2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。

接続できる機器

- ・このパソコンのトリプルワイヤレスLAN機能は「IEEE 802.11a」、「IEEE 802.11b」、「IEEE 802.11g」という規格に対応しています。「IEEE 802.11a」、「IEEE 802.11b」、「IEEE 802.11g」に対応している機器とトリプルワイヤレスLAN機能で接続できます。ただし、機器によっては接続できないこともあるので、機器を購入する前にメーカーや販売店に確認してください。
- ・このパソコンに接続できるNEC製のトリプルワイヤレスLAN対応機器については、NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェアドットコム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

- ・無線LAN 機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Alliance による「Wi-Fi(R) 認定を取得している同じ規格の製品を購入されることをおすすめいたします。

トリプルワイヤレスLAN機能の通信距離と速度


通信できる距離

トリプルワイヤレスLAN機能では、このパソコンと相手の機器との間に壁などの障害物がなければ、70m程度まで通信ができます。ただし、家庭やオフィスには通信の障害となるものがあるため、通信できる距離はもっと短くなります。

通信速度

規格上はIEEE 802.11aとIEEE 802.11gが54Mbps、IEEE 802.11bが11Mbpsが最大の通信速度となりますが、一般にはその50%以下の速度で通信が行われます。

通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。また、通信状態が悪くなって通信が途切れそうになると、通信が途切れないようにするために、自動的に通信速度を落とす機能があります。

現在、どのくらいの速度で通信しているかは、画面右下の通知領域の  をダブルクリックすると表示される画面で確認できます。

安定した通信をするために

- ・パソコンと相手の機器との距離は、できるだけ近くする。
- ・通信中は近くで同じ周波数帯域を使用する電子レンジや他の無線機器を使わない。

トリプルワイヤレスLAN機能のセキュリティ

ワイヤレスLAN通信での危険性

ワイヤレスLANはケーブルを使用するLANと違い、電波の届く範囲であればどこからでも、第三者からのデータの盗聴(傍受)または「なりすまし」によるネットワークへの不正アクセスを受ける危険性を持っており、重要なデータの漏洩につながる可能性があります。こういったワイヤレスLANの使用上の危険を回避するために、以下のセキュリティ機能を組み合わせて使用することをおすすめします。

チェック

- ・以下の機能を利用するには、機能に対応したアクセスポイントなどが必要です。
- ・これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保障するものではありません。

盗聴(傍受)を防ぐには

このパソコンのトリプルワイヤレスLAN機能は「WEP(Wired Equivalent Privacy)機能」に対応しています。「WEP機能」を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間のワイヤレス通信のデータを暗号化できるので、通信を盗聴されたり、関係のないパソコンや機器と接続することを防ぐことができます。「WEP機能」には「64ビットWEP対応」「128ビットWEP対応」「152ビットWEP対応」のものがありますが、このパソコンのトリプルワイヤレスLAN機能は、「64ビットWEP機能」「128ビットWEP機能」「152ビットWEP機能」のすべてに対応しています。ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。

メモ

WEP機能を使用するには、通信する相手の機器もWEP機能に対応している必要があります。

不正アクセスを防ぐには

- ・アクセスポイントと通信機器の両方に任意のネットワーク名(SSID)を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、同じSSIDを設定していない機器でも、そのネットワークがどんなSSIDを使用しているかは検出できてしまうため、SSIDを設定しただけではセキュリティを保てません。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように設定する必要があります。

- ・ 接続するパソコンなどのMACアドレス(ネットワークカードが持っている固有の番号)をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります。

より高度なセキュリティを行うには

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)機能を利用します。IEEE802.1X/EAP(Extensible Authentication Protocol)規格によるユーザ認証および、従来のWEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号方式TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)を使用することで、より高度なセキュリティを行うことができます。



メモ

WPA機能を使用するには、通信する相手のワイヤレス機器およびネットワーク環境もWPA機能に対応している必要があります。



参照

WEP機能やWPA機能の設定 『ばそガイド』「パソコンの設定」ネットワークの設定「ワイヤレスLANの設定(トリプルワイヤレスLANモデル)」

また、このパソコンにインストールされているファイアウォールソフトの「PCGATE Personal」を使えば、外部からの不正なアクセスの多くを防ぐことができます。

トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフ

他の機器に影響をあたえる場合や、トリプルワイヤレスLAN機能を使用しないとき、ワイヤレスLAN機能が使用できない環境で本機を使用するときは、必ずトリプルワイヤレスLAN機能をオフにしてください。

トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフの状態は、パソコン本体のワイヤレスランプ()で確認できます。

ワイヤレスランプ

ランプ	状態
緑点灯	オン(トリプルワイヤレスLAN機能が使用可能)
消灯	オフ(トリプルワイヤレスLAN機能が使用不可)

🔍 チェック

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替えた場合は、ワイヤレスランプでは確認できません。

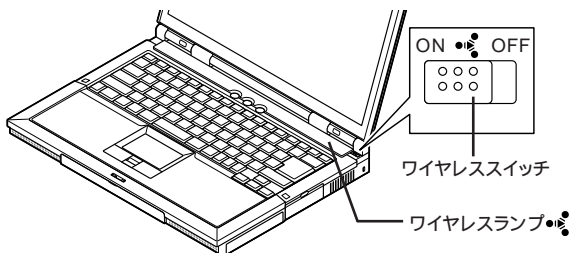
トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた

ワイヤレスLAN機能をオン/オフするには、次の方法があります。

ワイヤレススイッチで切り替える

ワイヤレススイッチを使って、トリプルワイヤレスLAN機能のオン/オフを切り替えることができます。

ワイヤレススイッチを左にスライドさせるとオンになり、右にスライドさせるとオフになります。



「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替える

🔍 チェック

この方法で切り替えると、ワイヤレスランプでトリプルワイヤレスLAN機能の状態の確認はできません。

オフにする

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で「無効にする」をクリックする

オンにする

「スタート」, 「すべてのプログラム」, 「アクセサリ」, 「通信」, 「ネットワーク接続」をクリックし、「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

「ワイヤレスクライアントマネージャ」で切り替える


オフにする

画面右下の通知領域のを右クリックし、「RF送信回路」 「オフ」をクリックする


オンにする

画面右下の通知領域のを右クリックし、「RF送信回路」 「オン」をクリックする




通知領域にがない場合は、「スタート」 「すべてのプログラム」 「ワイヤレスクライアントマネージャ」をクリックしてください。

トリプルワイヤレスLAN機能の設定を行う

購入時の状態では、接続先に合わせて5GHzか2.4GHzが自動的に選択されます。ワイヤレスLANへの接続のしかたや設定について詳しくは、「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ネットワークの設定」 「ワイヤレスLANの設定(トリプルワイヤレスLANモデル)」をご覧ください。



LANの設定を行うとPCGATE Personalの「ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されることがあります。「ばそガイド」 「インターネットと電子メール」 「インターネットを使いこなす」 「不正アクセスからパソコンを守るには」をご覧ください。

トリプルワイヤレスLANを使用するときの注意

- ・ ネットワークとの通信中は、パソコンを休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間の通信をするときは、パソコンにACアダプタを接続しコンセントからの電源を使用してください。


モデム

ダイヤルアップでインターネットに接続したり、FAXを使うときには、電話回線への接続が必要です。

メモ

「NECオンラインお客様登録」でお客様登録を行いたいときや、このパソコンに入っている「インターネット無料体験」を利用したいときにも、電話回線への接続が必要になります。

参照

- ・「NECオンラインお客様登録」について 『はじめにお読みください』の「お客様登録のご案内」、または『お客様登録ガイド』
- ・「インターネット無料体験」について  『ばそガイド』「インターネットと電子メール」「インターネット無料体験」

電話回線に接続する

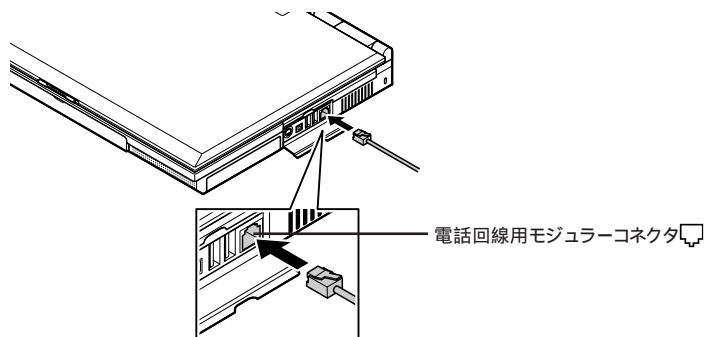
チェック

モジュラーケーブルを接続するには、お使いの電話回線のコネクタがモジュラーコンセントになっている必要があります。お使いの電話回線が3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販のモジュラーコンセントへの変換プラグが必要です。

直結配線方式の場合は、モジュラーコンセントへの変更が必要になります。詳しくは、NTTへご相談ください。

- 1 電話機などにつながっているモジュラーケーブルを、壁面などのモジュラーコンセントから取り外す
- 2 パソコンの電源を切る

- 3 モジュラーケーブルのプラグを、向きに注意して、パソコンの電話回線用モジュラーコネクタ(☐)に接続する

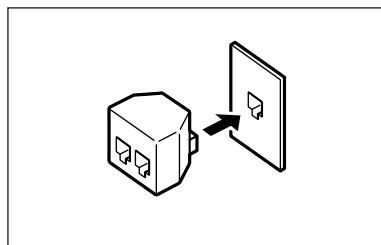


- 4 モジュラーケーブルのもう一方のプラグを、壁面などのモジュラーコンセントに接続する

電話機のつなぎ換えをしたくない場合は

このパソコンを接続した電話回線で電話機を使いたい場合は、もう一度、モジュラーコンセントからパソコンのモジュラーケーブルを取り外して、電話機をつなぎ直す必要があります。

この場合は、市販の分岐アダプタを使うと、つなぎ換えの作業を省略できます。ただし、パソコンと電話機が同時に電話回線を使えるわけではありません。パソコンで電話回線を使っているときには、同じ分岐アダプタに接続した電話機などの受話器を外さないでください。パソコンの通信が妨害され、切断されることがあります。




モジュラーコンセントに分岐アダプタを取り付けて、分岐アダプタにパソコンと電話機のモジュラーケーブルを接続します。

チェック

- ・ 電話機などの種類によっては、分岐アダプタに接続すると、動作しない機種がありますので注意してください。
- ・ 分岐アダプタに接続する電話機などによっては、パソコンでの通信が正常にできないことがあります。この場合は、次のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
 - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アースを接続する
 - パソコンで通信するときには、電話機などを取り外す。
- ・ 分岐アダプタを使う場合、接続された電話機からのノイズにより、通信速度が低下することがあります。
- ・ 回線自動転換機能付き分岐アダプタを使うと、電話機での通話時に、ノイズが入ることがあります。これを防ぐには、ノイズ防止回路付きの回線自動転換機能付き分岐アダプタを使うことをおすすめします。

モデムを使う

このパソコンのモデムを電話回線に接続すると、インターネットや電子メールを利用したり、FAXを送受信したりできるようになります。モデムを使ったインターネットへの接続のしかたや設定については、『はじめにお読みください』の「ここからはじめるインターネット&メール」をご覧ください。

また、モデムの設定については、『 ばそガイド』「パソコンの設定」 「インターネットの設定」 「モデムの設定」をご覧ください。

インターネットへの通信環境を切り替える


自宅ではADSL回線で常時接続、外出先では携帯電話でダイヤルアップ接続というように、複数のインターネット接続の設定を使い分けている場合は、「MobileOptimizer(モバイルオプティマイザー)」が便利です。

インターネットを使用する場所に応じた接続情報をあらかじめ登録しておくことで、インターネットを使いたい場所でスムーズに接続環境を切り替えることができます。





チェック

「MobileOptimizer」は、購入時にはインストールされていません。「ソフトナビゲーター」からインストールしてください。

参照

「MobileOptimizer」について  『ばそガイド』「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または 『スタート』「すべてのプログラム」 「MobileOptimizer」 「MobileOptimizer ヘルプ」

モデムを使用するときの注意

- ・ インターネットにダイヤルアップ接続している場合、Internet Explorerを終了しても、回線に接続したままになることがあります。画面右下の通知領域にが表示されていないことを確認してください。
表示されている場合は、をクリックし、表示される画面で「切断」をクリックしてください。
- ・ このパソコンのモデムは海外では使用できません。
- ・ 通信を行うときは、使用していないソフトは終了してください。
- ・ 通信中は休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ ダイヤルアップ接続中またはダイヤルアップ接続で通信中に、【Fn】を使ってディスプレイの切り替えや画面の伸縮をしたり、ピープ音や輝度の調節を行わないでください。ダイヤルアップ接続できない場合や通信が切断される場合があります。
- ・ 内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。それ以外の回線に接続すると故障、破損の原因になります。
- ・ 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ったり、希望の通信速度では通信できない場合があります。
- ・ キャッチホンサービスをご利用の場合、通信中に電話がかかってくると、モデムでの接続が切断されることがあります。
- ・ コードレスホンや親子電話など加入電話回線以外の回線を使っている場合、正常なデータ通信ができないことがあります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでのファクシミリ通信ができない場合があります。その場合は通信速度を9,600bpsに変更してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。
- ・ 構内交換機(PBX)の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・ 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。
- ・ 回線状況が悪く、うまく接続ができない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整を、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定の窓口にご相談ください。
- ・ ハイパーターミナルなどを使用して通信する場合はATコマンドが必要です。ATコマンドについては、「ばそガイド」/「パソコンの設定」/「パソコンの機能」/「ATコマンド」をご覧ください。
- ・ このパソコンのモデムはデータ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使用できますが、添付のソフト以外では機能が使用できない場合があります。これらの機能について詳しくは、「ばそガイド」/「パソコンの設定」/「インターネットの設定」/「モデムの設定」をご覧ください。

サウンド機能

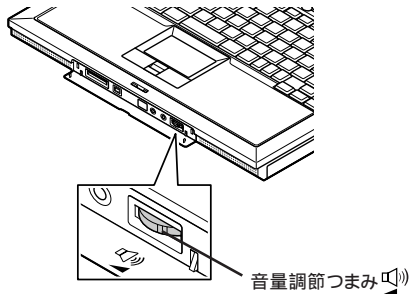
ここでは、音量の調節のしかたや、オーディオ機器の接続のしかた、サウンドの設定について説明します。

音量を調節する

音量調節つまみを使う

音量調節つまみ()で内蔵スピーカの音量を調節できます。


音量を上げたいときは音量調節つまみを右側に回し、下げたいときは左側に回します。また、音量をミュートしたいときは、音量調節つまみを1回押してください。もう1回押すとミュートが解除されます。



「ボリュームコントロール」で調節する

Windowsの「ボリュームコントロール」を使うと、パソコンから出る音楽CDなどの音の大きさや録音するときの入力レベルを調節できます。




「ボリュームコントロール」の使い方  『パソコンガイド』『パソコンの設定』『パソコンの機能』『サウンドの設定』

音楽CDからのデジタル出力設定



このパソコンでは、音楽CDの再生音をデジタル出力することができます。

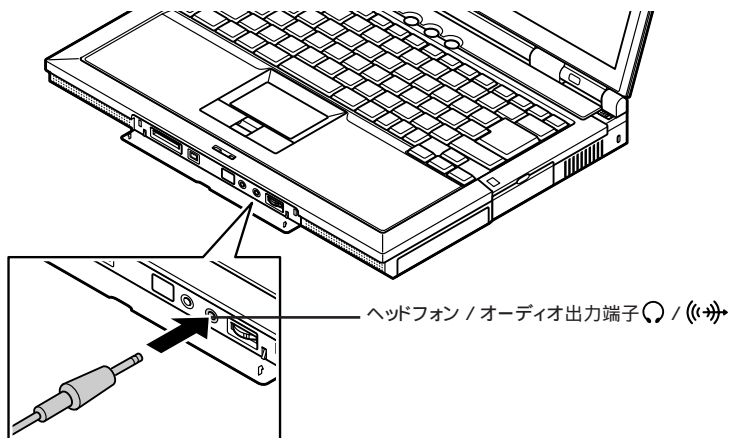


音楽CDからデジタル出力するための設定について  『パソコンガイド』『パソコンの設定』『パソコンの機能』『サウンドの設定』

オーディオ機器を接続する

ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する

このパソコンのヘッドフォン/オーディオ出力端子( / )には、市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続できます。



チェック

- ・ このパソコンのヘッドフォン/オーディオ出力端子には、ステレオミニプラグが接続できます。ステレオミニプラグ以外の端子の場合は、変換プラグ等が必要になります。
- ・ ヘッドフォンやオーディオ機器を取り付ける場合は、このパソコンと機器の音量を最小にして、取り付け後に音量を調節してください。
- ・ オーディオ機器を接続するときは、オーディオ機器側は、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。

DolbyHeadphone機能を使う

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。ヘッドフォン / オーディオ出力端子にヘッドフォンを接続すると、DVD-Videoディスクを臨場感のあるサウンドで楽しめます。

Dolby、ドルビー、Pro LogicおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

非公開機密著作物。著作権1992-1999年、ドルビーラボラトリーズ。不許複製

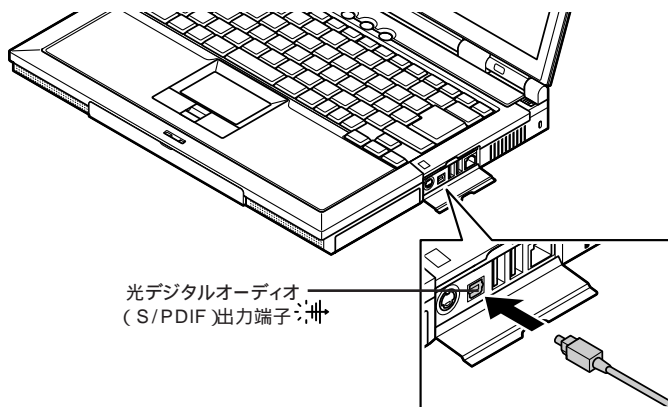


参照

DolbyHeadphone機能の使い方 「WinDVD」のヘルプ

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子に接続する

このパソコンの光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(☄)に、市販の光デジタル入力端子をもつオーディオ機器を接続できます。

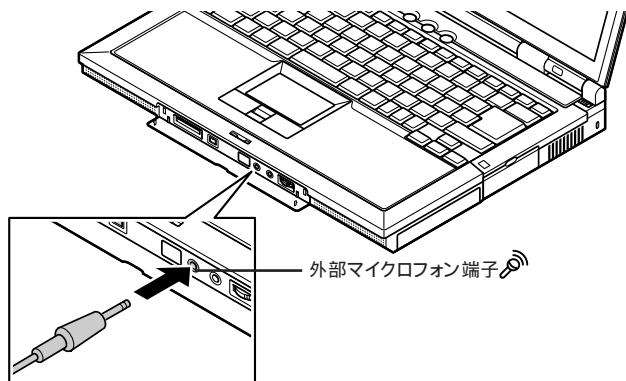



チェック

- このパソコンの光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、角型光プラグが接続できます。角型光プラグ以外の端子の場合は、変換プラグ等が必要になります。
- オーディオ機器を取り付ける場合は、このパソコンと機器の音量を最小にして、取り付け後に音量を調節してください。

マイクロフォンを接続する

このパソコンの外部マイクロフォン端子()には、市販のミニプラグ付きマイクロフォンを接続できます。



マイクロフォンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」で調節できます。また、マイクロフォンを使って録音するときのノイズを除去するように設定したりできます。詳しくは、「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「パソコンの機能」 「サウンドの設定」をご覧ください。



メモ

ミニプラグは、次の2種類のどちらも接続できます。



2極タイプの
ミニプラグ




3極タイプの
ミニプラグ

サウンドの設定をする

マイクروفオンやMIDI(ミディ)サウンドを設定する

「SoundMAXコントロールパネル」を使って、マイクروفオンやMIDIサウンドの設定ができます。MIDIサウンドの演奏モードは、「Microsoft GS Wavetable SW Synth」、「SoundMAX XGLite」、「SoundMAX General MIDI」のいずれかに設定できます。

詳しくは、「はそガイド」、「パソコンの設定」、「パソコンの機能」、「サウンドの設定」をご覧ください。

表示機能

ここでは、このパソコンの画面を調整したり、市販の外部ディスプレイやテレビを接続してパソコンの画面を大きな画面に表示する方法などについて説明します。

チェック

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点が見えることがあります。また見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。

画面表示を調整する


画面の明るさ(輝度)を調整する

このパソコンの液晶ディスプレイの明るさ(輝度)は、8段階で調節できます。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲☀)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが明るくなります(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼☀)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイが暗くなります(8段階)。


解像度と表示色を設定する

このパソコンの液晶ディスプレイで表示できる解像度と表示色については、PART3の「仕様一覧」(p.102)をご覧ください。

解像度と表示色の変更のしかたや、外部ディスプレイを接続したときに表示できる解像度や表示色については、「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「パソコンの機能」 「ディスプレイの設定」をご覧ください。

ディスプレイストレッチ機能

このパソコンの液晶ディスプレイに設定されている解像度よりも低い解像度でWindowsを使っているときに、液晶ディスプレイ全体にパソコンの画面を表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能の設定については、「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「パソコンの機能」 「ディスプレイの設定」をご覧ください。

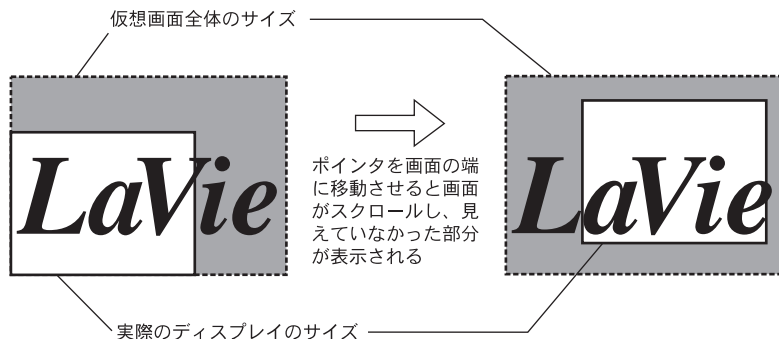


メモ


【Fn】を押したまま【F5】を押すと、液晶ディスプレイ全体に画面を拡大表示する / しないを切り替えることができます。

バーチャルスクリーン機能

ディスプレイが表示可能な解像度よりも、大きな解像度を使用できるようにするための仮想画面のことで、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面サイズよりも大きくなるため、ディスプレイには仮想画面の一部が表示された状態になります。




参照


- ・このパソコンで表示可能な解像度と表示色 PART3の「仕様一覧」(p.102)
- ・バーチャルスクリーン機能の設定  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「パソコンの機能」 「ディスプレイの設定」

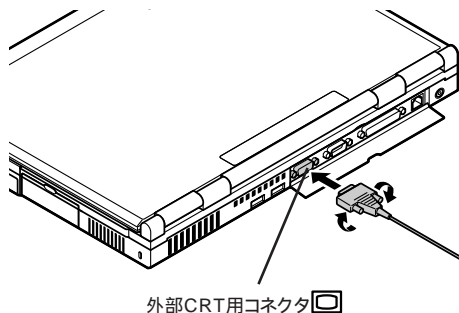
外部ディスプレイと連携させる

このパソコンに市販の外部ディスプレイやテレビを接続して、パソコンの画面を大きな画面に表示したり、パソコンと外部ディスプレイと合わせて1つの大きな画面として使うことができます。DVD-Videoの迫力ある映像を大きな画面で楽しみたいときや、デスクトップを広く使いたいときなどに便利です。

外部CRT用コネクタに接続する

外部CRT用コネクタ()には、市販の外部ディスプレイやプロジェクタなどを接続できます。

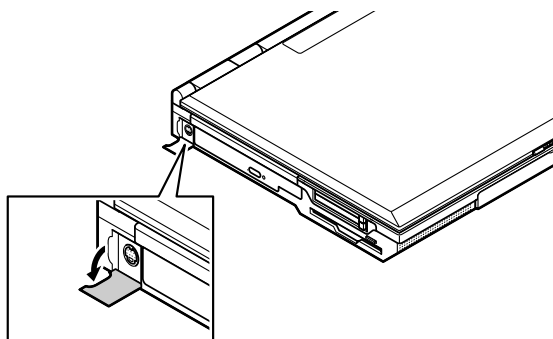
- 1 パソコンの電源を切る
- 2 ディスプレイ用ケーブルで、外部CRT用コネクタ()と外部ディスプレイなどを接続する
接続のしかたについては、外部ディスプレイなどに添付のマニュアルをご覧ください。



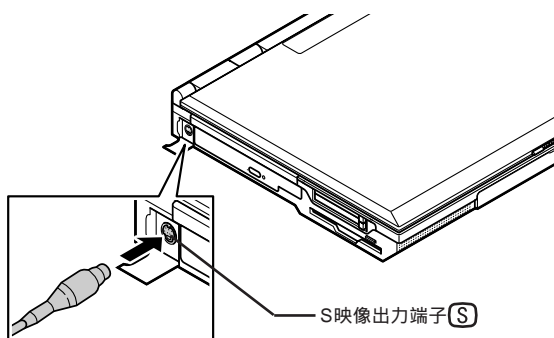
S映像出力端子にテレビを接続する

S映像出力端子 (S) には、S映像入力端子付きのテレビを取り付けることができます。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 本体左側面のカバーを開ける



- 3 市販のSビデオケーブルで、S映像出力端子 (S) とテレビのS映像入力端子を接続する



画面を表示するディスプレイを切り替える

外部ディスプレイやテレビを接続している場合は、次のどちらかの方法でパソコンの画面を表示するディスプレイを切り替えることができます。

キーボードで切り替える

【Fn】を押したまま【F3】を押すごとに、「液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示」「テレビ」「液晶ディスプレイ」「外部ディスプレイ」の順で、パソコンの画面を表示するディスプレイが切り替わります。




チェック

デュアルディスプレイに設定しているときにはこの操作は行えません。

「画面のプロパティ」で切り替える



参照


画面の出力先を切り替える  「ばそガイド」「パソコンの設定」「パソコンの機能」「ディスプレイの設定」

2つのディスプレイを1つの大きなディスプレイとして使う(デュアルディスプレイ機能)

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの2つのディスプレイを、連続した1つのディスプレイとして使うことができます。デスクトップを広く使いたいときなどに便利です。



参照

デュアルディスプレイ機能を使う  「ばそガイド」「パソコンの設定」「パソコンの機能」「ディスプレイの設定」

2つのディスプレイに同じ画面を表示する

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの両方に同じ画面を表示することができます。



参照

同じ画面を2つのディスプレイに表示する  「ばそガイド」「パソコンの設定」「パソコンの機能」「ディスプレイの設定」

セキュリティ機能

ここでは、パソコンが不正に使用されたり、パソコン本体やデータが盗まれたり、パソコンを起動するときに必要なファイルがコンピュータウイルスに感染したりすることを防ぐ方法を説明します。

不正使用やデータの盗難を防ぐ(パスワード)

パスワードには、Windowsで設定するパスワードとBIOS(バイオス)で設定するパスワードがあります。Windowsで設定するパスワードでは、パスワードを入力しないとWindowsを起動できないように設定できます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

BIOSで設定するパスワードでは、このほか、パスワードを入力しないとBIOSセットアップユーティリティを起動できないように設定することもでき、入力したパスワードによって設定できるBIOSの項目が制限されます。

チェック

- ・ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えて、人目に付かないところに保管しておくことをおすすめします。
- ・ パスワードを忘れてしまった場合の対処のしかたは、『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」をご覧ください。
- ・ NEC121コンタクトセンターなどにパソコンの修理を依頼される際には、パスワード解除しておいてください。

パスワードの種類

BIOSで設定するパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。このパソコンを複数のユーザーで使用しているときに、管理者以外のユーザーがBIOSの設定を自由に変更したり、パスワードを知らない人が不正にパソコンを起動してデータ盗難などを行うことを防げます。

スーパーバイザパスワード


管理者用のパスワードです。スーパーバイザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動すると、すべての項目が設定できるようになります。

ユーザパスワード

使用者用のパスワードです。ユーザパスワードを設定するには、スーパーバイザパスワードが設定されている必要があります。ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定できる項目が制限されます。

パスワードの設定をする

パスワードの設定は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

設定方法については、「ばそガイド」『パソコンの設定』『パソコンの機能』『BIOS設定』をご覧ください。

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

パソコン起動時にパスワードの入力が必要な設定にしているときは、次の手順で電源を入れてください。

1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

Enter CURRENT Password:

2 設定したパスワードを入力し、【Enter】を押す

正しいパスワードを入力すると、Windowsが起動します。

チェック

- ・ 間違ったパスワードを入力すると警告が表示されます。3回間違ったパスワードを入力すると、パスワードの入力ができなくなります。その場合は、一度パソコンの電源を切って、手順1からやりなおしてください。
- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合は、どちらのパスワードを入力してもかまいません。

コンピュータウイルスから守る(McAfee VirusScan Online)

コンピュータウイルスからパソコンを守るために、日頃からウイルスチェックを行いましょう。コンピュータウイルスに感染すると、パソコンが壊れたり、正常に動作しなくなることがあります。また、パソコンの動作は正常に見えても、知らない間にコンピュータウイルスに感染していて、パソコンに登録してあるメールアドレスに勝手にウイルス入りのメールを送ってしまうこともあります。このパソコンにインストールされている「McAfee VirusScan Online」を使ってコンピュータウイルスの感染を防ぐようにしましょう。ウイルスに感染してしまった場合も、「McAfee VirusScan Online」でウイルスを駆除することができます。



メモ

ウイルス対策については、「[パソコンガイド](#)」の「[インターネットと電子メール](#)」の「[インターネットを使いこなす](#)」の「[ウイルスとトラブルの予防](#)」もご覧ください



参照

「McAfee VirusScan Online」については、「[パソコンガイド](#)」の「[アプリケーションの紹介と説明](#)」の「[50音別目次](#)」

ハードディスク起動セクタのウイルス感染を防止する

パソコンの電源を入れたときに、起動のために最初に読み込む部分を「ハードディスク起動セクタ」といいます。ハードディスク起動セクタがウイルスに感染してしまうと、パソコンを正常に起動できなくなってしまうことがあります。ハードディスク起動セクタへの書き込みを禁止に設定しておくことで、起動に必要なファイルのウイルス感染を防止できます。

ハードディスク起動セクタへの書き込み禁止の設定については、「[パソコンガイド](#)」の「[パソコンの設定](#)」の「[パソコンの機能](#)」の「[BIOS設定](#)」をご覧ください。

パソコンへの不正侵入を防ぐ(PCGATE Personal)

インターネットに接続しているときなど、通信の機能を使って外部にパソコンをつないでいるときは、不正侵入される可能性があります。特にインターネットに常時接続しているときなどは、不正侵入される可能性が高まります。不正な侵入者によって、知らない間にパソコンの中のデータを覗かれたり改ざんされたりなどの被害にあわないように、対策を行う必要があります。このパソコンにインストールされている「PCGATE Personal」を使って不正侵入を防ぐことをおすすめします。



参照

- ・「PCGATE Personal」について 『パソコンガイド』「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」
- ・「PCGATE Personal」を常駐させる方法について 『パソコンガイド』「インターネットと電子メール」 「インターネットを使いこなす」 「不正アクセスからパソコンを守るには」



メモ

「PCGATE Personal」のほかに、別売のファイアウォール機能を持つルータを組み合わせて使うと、よりセキュリティ効果が高まります。

盗難を防ぐ(セキュリティケーブル)

このパソコンの盗難防止用ロック(p.2)に別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を取り付け、盗難を防ぐことができます。詳しくは、セキュリティケーブルのマニュアルをご覧ください。



チェック

当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)はこのパソコンでは使用できません。

PART

2

パソコンにつなぐ

このパソコンに取り付けることができる

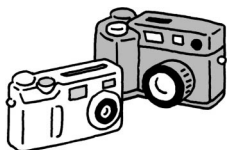
周辺機器

周辺機器の取り付けの際には、このパソコンで使えるものか確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのPARTを参考にしてください。

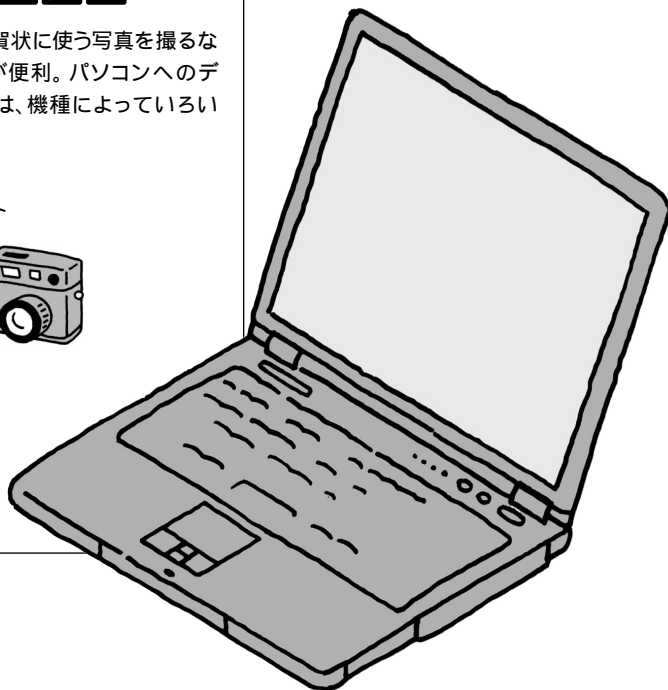
デジタルカメラ

ホームページや年賀状に使う写真を撮るならデジタルカメラが便利。パソコンへのデータの取り込み方は、機種によっていろいろあります。

- USBコネクタ
- PCカードスロット



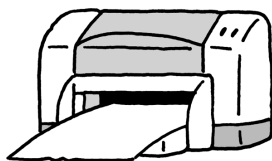
スマートメディア、コンパクトフラッシュなどは、専用のアダプタ(別売)に取り付けてPCカードスロットにセットできます。



プリンタ

デジカメで撮った写真やインターネットで見つけた情報を印刷したいときにはプリンタ。現在主流のインクジェットプリンタは種類も多く、写真画質や高速な印刷など用途に応じて選べます。接続が簡単なUSB対応のものがおすすめです。

- USBコネクタ



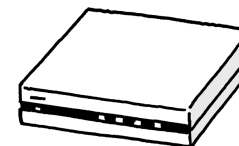
ADSLモデム / CATVモデム

ブロードバンドで快適なインターネットを楽しみたいときは、ADSLやケーブルテレビなどのインターネットサービスを利用しましょう。ADSLモデムやCATVモデムはLANコネクタに接続します。

ADSL/CATV業者によっては、指定されたモデム以外使用できない場合があります。詳しくはADSL/CATV業者にお問い合わせください。

ADSL/CATVモデムにはUSBコネクタに取り付けるものもあります。

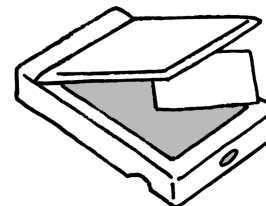
- LAN(ローカルエリアネットワーク)、→USBコネクタ



イメージスキャナ

パソコンに絵や写真を取り込むにはイメージスキャナ。取り込んだ絵や写真はパソコンで加工して、ホームページや年賀状などに活用できます。接続が簡単なUSB対応のものがおすすめです。

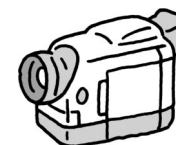
- USBコネクタ



デジタルビデオカメラ

撮影した映像をパソコンに取り込んで編集し、オリジナルのムービーが作れます。できあがったムービーはDVD-RやCD-Rに書き込んで、友達に見せることもできます。デジタルビデオカメラはIEEE1394コネクタに接続します。

- IEEE1394コネクタ



携帯電話

携帯電話とパソコンを接続してメモリアル等のデータ管理を行うことができます。携帯電話は別売の接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続します。

データ管理については、『快適パソコン生活Book』をご覧ください。

接続に使うケーブルはお使いの携帯電話によって異なります。PHSをお使いの場合は、パソコンと接続することはできません。

- USBコネクタ



マウス

マウスを使えば、パソコンの操作をより快適に行うことができます。マウスはUSBコネクタに接続します。

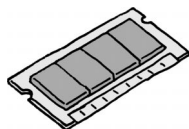
→USBコネクタ



増設メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、容量の大きなデータをより高速に扱うことができます。

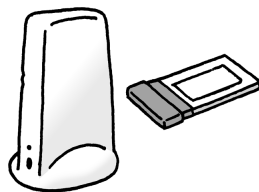
→メモリスロット



ワイヤレスLAN

家族で複数のパソコンを持っているときなど、ネットワークを作ればデータのやりとりやプリンタの共有ができます。ワイヤレスLANならば、パソコンにケーブルを接続しなくても通信ができるので、パソコンを持って部屋を移動してもネットワークが利用できます。

→PCカードスロット



周辺機器を使用するときのポイント

周辺機器の購入や、実際に使用するときのポイントを簡単にご紹介します。

周辺機器を選ぶときのポイント

周辺機器は種類が多く、どれを選べばよいか迷うことがあるかもしれません。周辺機器を購入するときは、次の点に注意して、自分の目的にあった製品を選びましょう。

買う前に確認しておくこと

目的にあっているか、欲しい機能はついているか

たとえば一口でプリンタといっても、写真画質の印刷が得意なものや、文章の印刷が速いものなど、製品によって機能に違いがあります。その製品が自分の目的にあっているか、欲しい機能はついているかを確認しておきましょう。

このパソコンで使用できるか

周辺機器がこのパソコンで使えるかを確認しておきましょう。次のようなチェックポイントがあります。

このパソコンに接続できるか

パソコンと周辺機器を接続する方法は何種類があります。周辺機器を接続するのに必要なコネクタやスロットがこのパソコンに用意されているかを確認しておきましょう。

このパソコンのOSに対応しているか

このパソコンにはWindows XPがインストールされています。周辺機器がWindows XPで使えるかを確認しておきましょう。

インターネット接続と周辺機器

ADSL回線に接続するにはADSLモデム、CATV回線に接続するにはCATVモデム、ISDN回線に接続するにはターミナルアダプタ(TA)を使います。お使いの回線の種類にあわせて、それぞれの周辺機器を用意する必要があります。CATVやADSLでは、接続業者が指定した機種しか使えなかったり、契約後に接続業者から送られてきたりすることが多いので、買う前に各接続業者に確認しておきましょう。

情報を集めるには

周辺機器についての情報を集めるには、次のような方法があります。

121ware.comで調べる

NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントウワンウェア ドットコム)」では、NECの周辺機器の情報や、NEC製のパソコンと周辺機器の対応を確認できます。また、ショッピングのページでは、いろいろな周辺機器をインターネット上で購入でき、大変便利です。

<http://121ware.com/>

買うときに確認すること

実際に周辺機器を購入するときには、次の点を確認しておきましょう。よくわからないときは、販売店に確認してください。

周辺機器を使うために必要なものはそろっているか

周辺機器によっては、パソコンとの接続に必要なケーブルや専用接続キット(アダプタ類、電源ケーブルなどのセット)を別途購入しなければならないこともあります。必要なものが別売のときは一緒に購入しておきましょう。

必要な消耗品はないか

たとえば、プリンタには、用紙やインクが必要です。消耗品が添付されていないときは、周辺機器と一緒に購入しましょう。

周辺機器をはじめて接続するときのポイント

周辺機器のマニュアルを読む

周辺機器の取り付けをする前に、まず周辺機器に添付されているマニュアルをよく読みましょう。周辺機器を使う上で大事な情報が書かれています。周辺機器のマニュアルを読むときは、次の点を確認しておきましょう。

取り付けの手順

取り付ける前に、デバイスドライバやソフトウェアのインストールが必要な場合があります。取り付けの手順を確認して、手順どおりに行ってください。

パソコンの電源のオン/オフ

パソコンの電源を入れて取り付けるものと、切った状態で取り付けるものがあります。

デバイスドライバのインストールや設定

Windowsにドライバが準備されていない場合や、専用のドライバを使う場合など、デバイスドライバのインストールや設定が必要なことがあります。周辺機器のマニュアルや次のページの「デバイスドライバ」をご覧ください。

Windowsの設定

周辺機器によっては、Windowsの設定を変更する必要があるものがあります。

周辺機器を取り付けるときの注意

パソコンが省電力状態のときは周辺機器の取り付けを行わない

省電力状態のときに周辺機器を接続すると、パソコンや周辺機器が正常に動作しなくなることがあります。省電力状態になっているときは、省電力状態を解除してから取り付けてください。

周辺機器は1つずつ取り付ける

複数の周辺機器を取り付けるときは、1つずつ取り付けて、正しく動作したことを確認してから次の周辺機器を取り付けてください。一度に取り付けると、正しく動作しないことや、問題が起きたときの原因の周辺機器がわかりにくくなります。

デバイスドライバについて

デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、「ドライバ」と呼ぶこともあります。周辺機器によっては、パソコンにデバイスドライバをインストールする必要があります。

周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかによって、ドライバのインストール方法が異なります。詳しくは周辺機器のマニュアルで確認してください。

「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器

Windows XPにドライバが準備されている場合


周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバのインストールが行われ、周辺機器が使用できる状態になります。周辺機器によってはインストール後に設定が必要なこともありますので、周辺機器のマニュアルで確認してください。

Windows XPにドライバが準備されていない場合 / 専用のドライバがある場合
周辺機器に付属のCD-ROMなどからドライバをインストールする必要があります。周辺機器によっては、取り付けの前にドライバのインストールが必要な場合もあります。

ドライバの詳しいインストール手順や設定方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器

周辺機器を使うためには、ドライバのインストールが必要です。周辺機器のマニュアルにしたがってドライバのインストールをしてください。

ドライバのインストールがうまくいかなかった場合は、周辺機器のマニュアル、周辺機器メーカーのホームページ、または「ばそガイド」「トラブル解決」「Step 2 カテゴリー別Q&A」「周辺機器」をご覧ください。

周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント

周辺機器を取り付け / 取り外しをするときの注意


省電力状態のときは、周辺機器の取り付け / 取り外しは行わないでください。


周辺機器の取り付け

一度接続して、使用するための設定を済ませた周辺機器を再接続する場合、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待つと使用できます。

周辺機器の取り外し

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE 1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたままでも取り付けや取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されているときは、次の手順で取り外しを行ってください。次の手順で取り外しをしないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されます。
- 2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」をクリックする
周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」で取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」をクリックする
画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」をクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」を閉じる
これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

ユーエスピー

USBコネクタ

USBコネクタには、プリンタやイメージスキャナなど、さまざまなUSB対応機器を取り付けることができます。基本的な取り付け方は、どのUSB対応機器でも同じです。

USBコネクタについて

このパソコンのUSBコネクタ

このパソコンには、USB 2.0に対応したUSBコネクタが用意されています。USBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。すべてのUSBコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、複数の機器を同時に使用することもできます。

USBハブを使う

標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、市販のUSBハブを接続して、コネクタの数を増やすこともできます。USBハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USBハブの数も含む)までの周辺機器を接続できます。USBハブの詳しい使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。



チェック

USBハブを使用する場合は、USBハブをパソコンに先に取り付けてから、USB対応機器のプラグをUSBハブのコネクタに差し込んでください。



USB対応機器の取り付け方と取り外し方

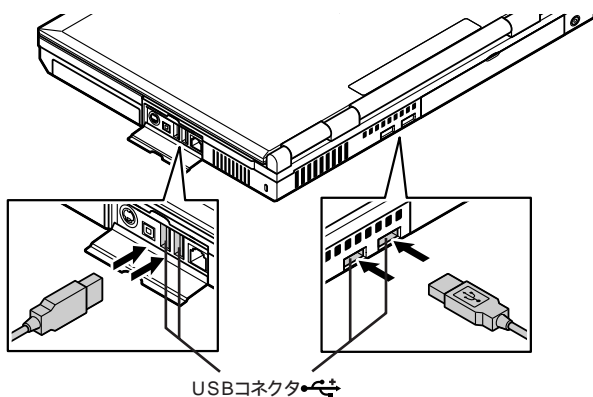
USB対応機器を取り付ける前に


- ・ プリンタなど、電源スイッチのある機器を利用する場合、あらかじめ機器の電源を入れてから接続してください。
- ・ 機器によっては、ドライバやソフトのインストール、設定の作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前に、ドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

- ・ ドライバのインストールが完了していても、別のUSBコネクタにその機器を接続すると、再びドライバのインストール画面が表示されることがあります。そのときは、画面を読んで、もう一度ドライバをインストールしてください。
- ・ 機器にUSBケーブルが添付されている場合は、平らな方のプラグをこのパソコンのUSBコネクタに、四角い方のプラグを周辺機器のコネクタに差し込みます。

USB対応機器を取り付ける

- 1 USBケーブルのプラグを、向きに注意してパソコンのUSBコネクタ() に差し込む
プラグの  が上または左を向くように差し込みます。どのUSBコネクタに差し込んでかまいません。





- 2 USB対応機器が正しく認識されたかを確認する
取り付けた機器によっては、画面右下の通知領域に  が追加されます。確認方法については、USB対応機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB対応機器を使用するときの注意

- ・ USBコネクタの抜き差しは3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBデバイスが正常に認識されていないときは、一度USBコネクタからプラグを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 省電力状態のときや省電力状態に移行中、復帰中はUSBコネクタの抜き差しをしないでください。
- ・ USB 2.0対応機器を使用するときは、USBハブ、USBケーブルもUSB2.0に対応したものをお使いください。

USB対応機器を取り外す

画面右下の通知領域にが表示されている場合は、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け／取り外しのポイント」(p.82)をご覧ください。正しい手順で取り外してください。が表示されていない場合は、そのまま取り外せます。

IEEE 1394コネクタ

IEEE 1394コネクタには、デジタルビデオカメラや外付け用ハードディスクなどのIEEE 1394対応機器を取り付けることができます。

IEEE 1394コネクタについて

このパソコンには、IEEE 1394コネクタ(4ピン)が1つ用意されています。



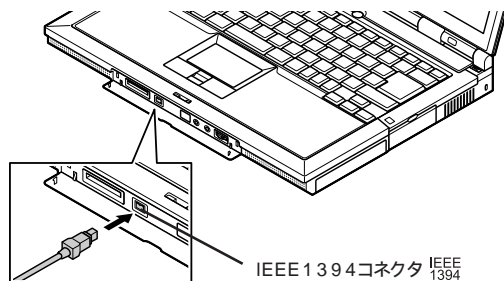
機器によってはIEEE 1394コネクタを「DV端子」と呼ぶこともあります。

IEEE 1394対応機器の取り付け方と取り外し方

IEEE 1394対応機器を取り付ける

このパソコンにIEEE 1394対応機器を接続するには、別売のIEEE 1394ケーブル(4ピン用)が必要です。

- 1 IEEE 1394ケーブルのプラグを、向きに注意してパソコンのIEEE 1394コネクタ(IEEE 1394)に接続する



- 2 IEEE 1394ケーブルのもう一方のプラグを、取り付ける機器のIEEE 1394コネクタに接続する



デジタルビデオカメラから映像を取り込む、編集する

IEEE1394コネクタにデジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けると、パソコンへの映像の取り込みや取り込んだ映像の編集、デジタルビデオ機器への出力ができます。

チェック

お客様が録画、録音したものは、個人で楽しむ場合を除き、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。


参照

- ・映像の取り込み、編集、デジタルビデオ機器への出力 VideoStudioのオンラインヘルプ、または  [「ばそガイド」](#)「アプリケーションの紹介と説明」[「50音別目次」](#)「VideoStudio」
- ・映像の再生  [「ばそガイド」](#)「アプリケーションの紹介と説明」[「50音別目次」](#)「WinDVD」[「WinDVD」](#)のヘルプ

パソコン同士を接続する

IEEE1394ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルの共有や、データの移動ができるようになります。

接続にはホームネットワークの設定が必要になります。ホームネットワークの設定は、「スタート」[「コントロールパネル」](#)「ネットワークとインターネット接続」[「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」](#)をクリックして、表示された「ネットワーク セットアップ ウィザード」で行ってください。

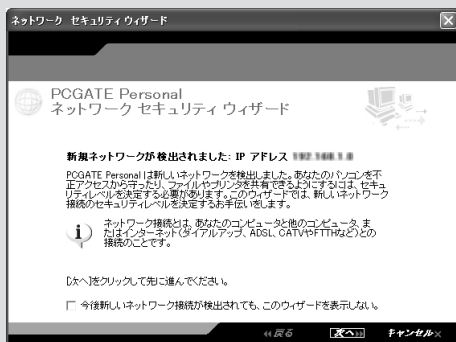
ネットワークの設定は、 [「ばそガイド」](#)「パソコンの設定」[「ネットワークの設定」](#)「LANの設定」でも説明しています。



チェック

「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」画面が表示されたら

ネットワークの設定を行うと、次の「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されることがあります。



「PCGATE Personal」は、パソコンへのネットワークを経由した不正アクセスを防ぐことができるソフトです。ネットワークに接続したときに、この画面が表示されることがあります。この画面では、ネットワークのセキュリティレベルを設定できます。

設定のしかたについては、「ばそガイド」『インターネットと電子メール』『インターネットを使いこなす』『不正アクセスからパソコンを守るには』をご覧ください。



参照

「PCGATE Personal」について PART1の「パソコンへの不正侵入を防ぐ(PCGATE Personal)」(p.73) または 「ばそガイド」『アプリケーションの紹介と説明』『50音別目次』

IEEE1394対応機器を取り外す

IEEE1394対応機器の取り外しは、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント」(p.82) をご覧になり、正しい手順で取り外してください。

ピーシー

PCカードスロット

PCカードは、クレジットカードサイズの機器です。メモリーカードのようにデータを保存、移動したりするだけのものなど、様々な種類があります。

PCカードについて

このパソコンでは、PC Card Standardに準拠したPCカードが使えます。また、CardBus(カードバス) 対応のPCカードを使うことができます。

:より高速なデータ転送ができるPCカードの規格の一つ

PCカードのセットのしかたと取り出し方

PCカードを使うときの注意

- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使えません。また、ZVポート対応のPCカードは使えません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因になります。
- ・ PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温、多湿、低温の場所に放置しない
 - 濡らさない
 - 重いものを載せない
 - ぶつかけたり、落としたりして、衝撃を与えない
 - 曲げない
 - PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ PCカードをセットする前に、イジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- ・ 省電力状態のときや、ソフトを使っているときには、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

- ・省電力状態に対応していないPCカード(LANカード含む)を使っているときは、省電力状態にしないでください。このパソコンは、購入時の状態では、一定時間以上キーボードやNXパッドを操作しなかったり、ハードディスクへのアクセスがない状態が続くと、自動的に省電力状態になるように設定されていますので、自動的に省電力状態にならないように設定を変更してください。



参照

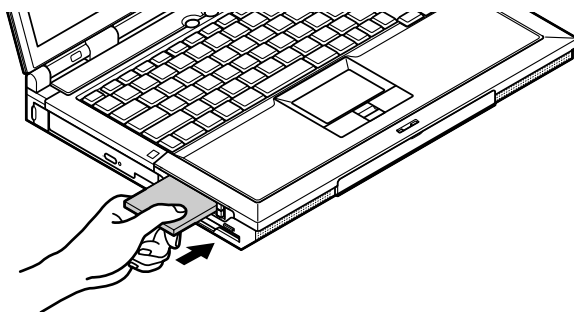
自動的に省電力状態にならないように設定する PART1の「省電力機能の設定をする」(p.41)

デジタルカメラのデータを取り込むとき

デジタルカメラのデータをPCカードスロットを使って取り込むときには、PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要な場合があります。デジタルカメラに添付のマニュアルで確認してください。

PCカードをセットする

PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロットにゆっくりとまっすぐ差し込んでください。



チェック

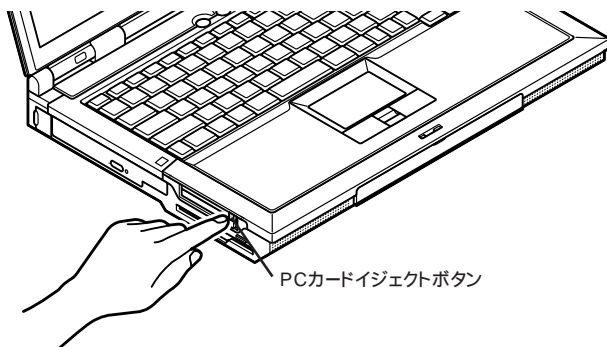
間違った向きでむりやり差し込んだり、差し込むときに無理な力をかけると、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。PCカードを差し込む向きについては、PCカードに添付のマニュアルで確認してください。

PCカードを取り出す

① チェック

PCカードによっては、ここで説明している手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

- 1 「周辺機器の取り付け/取り外しのポイント」(p.82)で、周辺機器を取り外す準備を行う
- 2 PCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前に飛び出します。



- 3 もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す
PCカードが少し飛び出します。
- 4 PCカードをまっすぐ引き抜く

メモリスロット

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAMボードをメモリスロットに取り付けます。

このパソコンで使える増設RAMボード

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M050	256Mバイト
PK-UG-M051	512Mバイト
PK-UG-M052	1Gバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

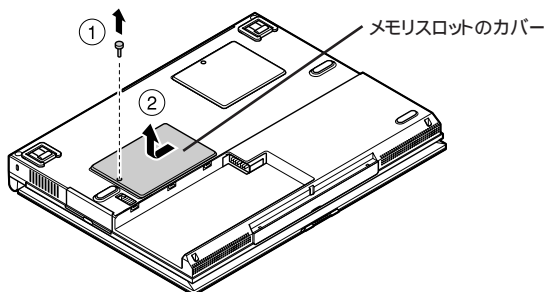
- ・ 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMボードの取り付け方と取り外し方

増設RAMボードを取り付ける

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す(p.34)

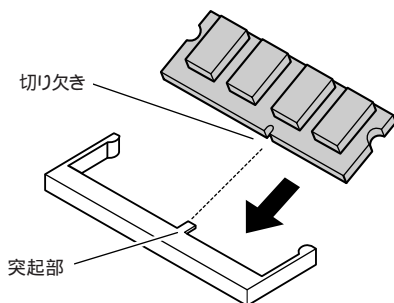
- 5 図のネジをプラスドライバで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す



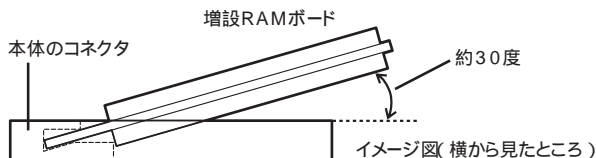
- 6 増設RAMボードの切り欠き部分とコネクタの突起部を合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する。増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

チェック

増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができません。間違った向きそのままでも無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが破損する原因となりますので注意してください。



実物はイラストと多少異なる場合があります

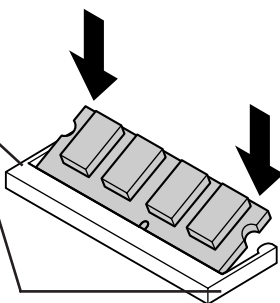


🔍 チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

増設RAMボードを倒し込むときこの部分が左右に開き、RAMボードがロックされると元の位置に戻ります。

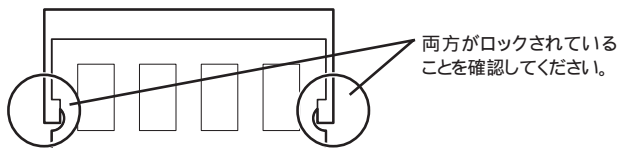


8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。


🔍 チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



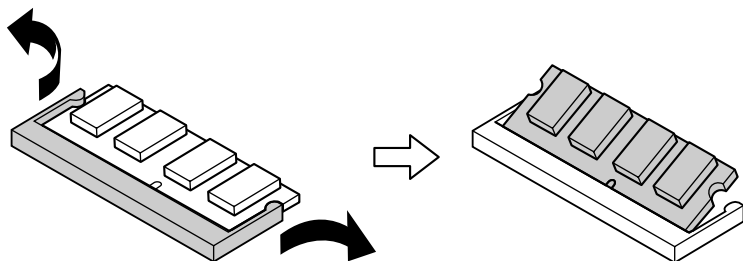
9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、「ばそガイド」-「パソコンの情報」でメモリ容量を確認してください。

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける」(p.92)の手順1～5を行い、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。




- 3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く
- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

シリアルコネクタ / パラレルコネクタ


機器を取り付け / 取り外しするときの注意

- ・ シリアルコネクタ、パラレルコネクタに周辺機器を取り付ける場合は、パソコンの電源を切ってから取り付けてください。
- ・ シリアルコネクタ、パラレルコネクタに接続した周辺機器を使用するときは、周辺機器の電源 パソコンの電源の順番で電源を入れてください。

シリアルコネクタ

シリアルコネクタ( p.3)には、アナログモデムやターミナルアダプタなどのシリアルインターフェイス対応の機器を接続することができます。シリアルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にはシリアルポートと呼びます。

パラレルコネクタ

パラレルコネクタ( p.3)には、プリンタなどのパラレルインターフェイスの機器を接続することができます。パラレルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にはパラレルポートと呼びます。

マウス/テンキーボード用コネクタ

機器を取り付け/取り外しするときの注意


マウス/テンキーボード用コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、パソコンの電源を切ってから取り付けてください。

マウス/テンキーボード用コネクタ

マウス/テンキーボード用コネクタ( /  p.2)には、PS/2タイプのマウスやテンキーボードを取り付けることができます。

メモ

別売のPS/2タイプのマウスを接続したときに、誤動作を防ぐためNXパッドでの操作が無効になります。

詳しくは  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「パソコンの機能」 「BIOS設定」 をご覧ください。

P A R T

3

付 録

BIOSセットアップユーティリティ

BIOSセットアップメニューでは、ハードウェア環境の確認と変更、セキュリティなど本機の使用環境を設定できます。

BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティの起動

- 1 パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す
BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。



BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして、【F2】を押す間隔を変えてください。

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

操作はキーボードで行います。

設定を変更する

- ・【 **↑** 】でメニューを選び、【 **→** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【Fn】+【+】【Fn】+【-】または【Enter】を押すと表示されるダイアログボックスで変更します。

設定の変更を保存する

「終了」メニューの「変更を保存して終了」を選びます。変更した設定内容が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

設定の変更を取り消す

「終了」メニューの「変更を取り消す」を選びます。各設定項目の設定内容を最後に保存した値に戻します。

BIOSセットアップユーティリティの終了

変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定内容が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

変更を保存せずに終了する

「終了」メニューの「変更を保存せずに終了」を選びます。設定内容を最後に保存した値に戻して、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

購入時の値に戻す



メモ

購入時の値に戻しても、パスワードの設定は変更されません。

1 キーボードの【F9】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

3 キーボードの【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

購入時の値が設定され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

仕様一覧

本体仕様一覧


LC900 / LC700

型名	LC900/7D		LC700/7D	
型番	PC-LC9007D		PC-LC7007D	
CPU ¹	HT テクノロジ ² モバイルインテル® Pentium® 4 プロセッサ 3.06GHz(拡張版Intel SpeedStep®テクノロジ搭載 ³)		モバイルインテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.66GHz(拡張版Intel SpeedStep®テクノロジ搭載 ³)	
キャッシュメモリ	1次	12K μ 命令実行トレースキャッシュ/8KBデ-タキャッシュ(CPU内蔵)		
	2次	512KB(CPU内蔵)		
バスクロック	システムバス	533MHz		
	メモリバス	333MHz		
チップセット	Intel社製 82852PM/82801DBM			
メモリ (メインRAM) ⁴	標準容量	512MB(DDR SDRAM/ SO-DIMM, PC2700 対応)	256MB(DDR SDRAM/ SO-DIMM, PC2700 対応)	
	スロット数	2スロット[空きスロット 1]		
	最大容量	2GB ⁵		
表示機能	内蔵ディスプレイ	15型 高輝度・広視野角・ハイレゾ TFTカラー液晶(エクセレントシャインビュー液晶 X SXGA+(最大1,400 × 1,050ドット表示))		
	ビデオRAM	64MB		
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製 MOBILITY™ RADEON™ 9000 [AGP対応]		
	解像度・表示色 ^{6,7} (別売の外付け ディスプレイ 接続時 ⁸)	800×600ドット	最大1,677万色 ⁹ (最大1,677万色)	
		1,024×768ドット	最大1,677万色 ⁹ (最大1,677万色)	
		1,280×1,024ドット	最大1,677万色 ⁹ (最大1,677万色)	
		1,400×1,050ドット	最大1,677万色 ⁹ (-)	
1,600×1,200ドット		最大1,677万色 ⁹ (最大1,677万色)		
1,920×1,440ドット	最大1,677万色 ⁹ (最大1,677万色)			
サウンド機能	音源 / サラウンド機能	PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット / 16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI<XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応 ¹⁰ >)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド		
	スピーカ/スピーカ定格出力	内蔵ステレオスピーカ/1.82W + 1.82W		
	サウンドチップ	ADI社製 AD1981B搭載		

型名		LC900/7D	LC700/7D
型番		PC-LC9007D	PC-LC7007D
通信機能	FAXモデム ¹¹	データ通信:最大56Kbps ¹² (V.90対応)/FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T対応	
入力装置	キーボード	シルクプロテインコート 本体一体型(キーピッチ19mm ¹³ 、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列(87キー)、右コントロールキー付き	
	マイク	モノラルマイク内蔵	
	ワンタッチスタートボタン	ワンタッチスタートボタン搭載	
	ポインティングデバイス	スクロール機能付NXパッド標準装備	
フロッピーディスクドライブ	3.5 型内蔵 ¹⁴		
ハードディスクドライブ ¹⁵	約80GB ¹⁶ (UltraATA-100)		
CD/DVDドライブ		DVDマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)	
	速度	DVD-RAM読出し:最大2倍速 ¹⁷ 、DVD-RAM書換え:最大2倍速 ^{17 18} 、DVD-R書込み:最大2倍速 ¹⁹ 、DVD-RW書換え:1倍速 ²⁰ 、DVD読出し:最大8倍速、CD読出し:最大24倍速、CD-R書込み:最大16倍速、CD-RW書換え:最大8倍速 ²¹	
スロット	PCカード	Type x2 (Type x1 スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応	
	SDメモリーカード	デュアルメモリースロット(両用スロット)×1 ²²	
	メモリースティック(メモリースティックPRO)	デュアルメモリースロット(両用スロット)×1 ²²	
インターフェイス	USB	コネクタ4ピン×4(USB2.0×4)	
	IEEE1394(DV)	4ピン×1	
	パラレル	D-sub25ピン×1	
	シリアル	D-sub9ピン×1	
	ディスプレイ(アナログ)	ミニD-sub15ピン×1	
	PS/2	ミニDIN6ピン×1	
	赤外線通信 ²³	IrDA1.1規格準拠×1(データ通信速度4Mbps)	
	FAXモデム	RJ11モジュラコネクタ×1	
	LAN	RJ45コネクタ×1	
サウンド関連 インターフェイス	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角型×1	
	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(ライン出力レベル1Vrms)	
	マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス10k 入力レベル5mVrms、バイアス電圧3.7V)	
	ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス16-100「推奨32」、出力電力5mW/32)	
映像関連 インターフェイス	ビデオ出力(TV-OUT)	S端子×1	

型名	LC900/7D		LC700/7D
型番	PC-LC9007D		PC-LC7007D
バッテリー駆動時間 ²⁴ ²⁵	約 4.1 時間	約 4.6 時間	
バッテリー充電時間(電源ON時 / OFF時) ²⁴	約 3.3 時間 / 約 3.3 時間		
電源 ²⁶	リチウムイオンバッテリーまたはAC100 ~ 240V ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ²⁷		
消費電力	標準	約 28W	約 26W
	最大	約 120W	
エネルギー消費効率(ACアダプタを含む)	S 区分 0.00028	S 区分 0.00024	
電波障害対策	VCCI ClassB		
温湿度条件	5 ~ 35 、 20 ~ 80%(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体(突起部除く)	335(W)× 281(D)× 45(H)mm	
	ACアダプタ	約 169.5(W)× 65(D)× 37.5(H)mm	
質量	本体	約 4.3kg	
	ACアダプタ	約 670g	
インストールOS・サポートOS	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack1 ²⁸		
主な添付品	ACアダプタ、マニュアル、回線ケーブル		
主なインストールソフト	Microsoft® Office Personal Edition 2003		

- 1: 使用環境や負荷によりCPU動作スピードをダイナミックに変化させる制御を搭載しています。
- 2: ソフトウェアやドライバがHTテクノロジーに対応している必要があります。各ソフトウェアメーカ、周辺機器メーカにお問い合わせください。
- 3: 電源の種類(AC電源、バッテリー)やシステム負荷に応じて動作性能を切り替える機能です。
- 4: 使用可能な増設メモリは、PK-UG-M050(256MB、PC2700)、PK-UG-M051(512MB、PC2700)、PK-UG-M052(1024MB、PC2700)を推奨します。
- 5: 最大メモリ容量にする場合、本体に標準実装されているメモリを取り外して、別売の増設RAMボード(1024MB)を2枚実装する必要があります。
- 6: 本体液晶ディスプレイより大きい解像度を選択した場合は、バーチャルスクリーン機能により実現します。
- 7: 本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。
- 8: 本機の持つ解像度及び色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。拡大表示機能を使用しない状態で、本体液晶ディスプレイより小さい解像度では、外付けディスプレイ全体には表示されません。
- 9: 1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現します。
- 10: DLSは「Downloadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
- 11: 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 12: 56Kbpsはデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
- 13: キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。
- 14: 3モード(720KB/1.2MB/1.44MB)に対応しています(1.2MBモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります)。ただし、720KB/1.2MBモードのフォーマットは不可です。
- 15: 1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
- 16: Windows®のシステムからは、容量がCドライブ:約65GB、Dドライブ:約3.7GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
- 17: DVD-RAM Ver.2 (片面4.7GB)の速度です。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジ無し、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。

- 18: DVD-RAM Ver.1 (片面 2.6GB)の書き換えはサポートしていません。
- 19: DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
- 20: DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
- 21: Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
- 22: マジックゲート対応メモリスティックの著作権保護機能には対応しておりません。メモリスティックとSDメモリーカードを同時に使用することはできません。
- 23: 赤外線通信機能を使うためにはBIOS セットアップユーティリティの「周辺機器」メニューの「赤外線ポート」を設定する必要があります。BIOS セットアップユーティリティについては、「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「BIOS設定」を、赤外線通信については、Windowsのヘルプを参照してください。
- 24: バッテリー駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
- 25: JEITA バッテリー動作時間測定法 (Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件は、インターネット <http://121ware.com/personal/> 各シリーズページ 「仕様一覧」でご案内しています。
- 26: PC本体のバッテリーは消耗品です。
- 27: 標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 28: 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Edition では、ネットワークドメインに参加する機能はありません。別売のWindows® XP Home Edition パッケージやWindows® XP Professional パッケージをインストールおよび利用することはできません。

その他のご注意

[著作権に関するご注意について]

- ・お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
- ・複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製等に関する注意事項にしたがってください。
- ・お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。
- ・コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。

[インターネット電話/インターネットテレビ電話について]

- ・ご利用の通信事業者、プロバイダ、お客様の環境によってはご利用にならない場合があります。事前に通信事業者やプロバイダにご確認ください。ADSLなどのブロードバンド環境でのご利用を推奨いたします。

[CD/DVDの読み込み/書き込みについて]

- ・メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
- ・12cm CD、DVD以外は使用できません。ハート型などの特殊形状をしたCDは故障の原因となりますので使用しないでください。
- ・設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
- ・映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM(96kHz/24bit)で記録されている20kHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
- ・ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。

[周辺機器接続について]


- ・接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- ・接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット <http://121ware.com/nsmobile/> (各シリーズページ「接続情報」)をご覧ください。
- ・USB 1.1対応の周辺機器も利用できます。USB 2.0で動作するにはUSB 2.0対応の周辺機器が必要です。動作確認済み機種についてはインターネット <http://121ware.com/nsmobile/> (各シリーズページ「接続情報」)をご覧ください。
- ・IEEE 1394インターフェイスを装備した製品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット <http://121ware.com/nsmobile/> (各シリーズページ「接続情報」)をご覧ください。
- ・光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム)に準拠した信号を出力しませんが、

FAXモデム仕様一覧

項目	規格	
適用回線	加入電話回線	
ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)	
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格 ¹	ITU-T V.17:14,400/12,000/9,600/7,200bps V.29:9,600/7,200bps V.27ter:4,800/2,400bps V.21ch2:300bps
	送信レベル	-11~-15dBm(出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)
	データモデム機能	同期方式
通信規格 ¹		ITU-T V.90:56,000~28,000bps ² V.34:33,600~2,400bps V.32bis:14,400~4,800bps V.32:9,600~4,800bps V.22bis:2,400/1,200bps V.22:1,200/600bps V.21:300bps
エラー訂正		ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮		ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル		-11~-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル		-10~-40dBm
制御コマンド		Hayes ATコマンド準拠 ³

1: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

2: 送信時は33,600~2,400bpsになります。

3: ATコマンドについては、「ばそガイド」/「パソコンの設定」/「パソコンの機能」/「ATコマンド」をご覧ください。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps
	10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX：最大約200m / ステーション間
	10BASE-T：最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

：リピータの台数など、条件によって異なります。

トリプルワイヤレスLAN仕様一覧

本機能は、トリプルワイヤレスLANモデルのみの機能です。

2.4GHzワイヤレスLAN

準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b ARIB STD-T66
通信速度	IEEE802.11g:54/48/36/24/18/12/6(Mbps) ^{1 2} IEEE802.11b:11/5.5/2/1(Mbps) ¹
変調方式	OFDM方式(54/48/36/24/18/12/6Mbps時) DS-SS方式(11/5.5/2/1Mbps時)
無線チャンネル	1 ~ 13ch
周波数帯域	2.4GHz帯域(2.4 ~ 2.4835GHz)
セキュリティ	WPA(Wi-Fi Protected Access)
暗号化機能	暗号化鍵長64bit、128bit、152bit ³

5GHzワイヤレスLAN

準拠規格	IEEE802.11a ARIB STD-T71
通信速度	54/48/36/24/18/12/6(Mbps) ¹
変調方式	OFDM方式
無線チャンネル	34ch、38ch、42ch、46ch
周波数帯域	5GHz帯域(5.15 ~ 5.25GHz) ⁴
セキュリティ	WPA(Wi-Fi Protected Access)
暗号化機能	暗号化鍵長64bit、128bit、152bit ³

1: 各規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーションソフトウェアなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。

2: ピアツーピア(アドホック)接続の場合、通信相手がIEEE802.11gモードでもIEEE802.11bモードで接続します。

3: ユーザーが使用可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bit、128bitです。

4: 5GHzワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。



索 引

索引

英数字

121ware(ワントゥワンウェア).....	80
ADSL.....	44
BIOSセットアップユーティリティ	100
CATV.....	44
CD/DVDドライブ.....	3, 12
CDの再生.....	17
DCコネクタ.....	3
DolbyHeadphone.....	62
DVD-Videoディスクの再生.....	17
【Fn】エフエヌキー).....	9
IEEE1394コネクタ.....	2, 86
LAN.....	44, 107
LANコネクタ.....	3, 44
McAfee VirusScan Online.....	72
MobileOptimizer.....	48, 58
NXパッド.....	2, 4
PCGATE Personal.....	47, 73, 88
PCカード.....	89
PCカードイジェクトボタン.....	3, 91
PCカードスロット.....	3, 89
「SDメモリーカード」.....	26
S映像出力端子.....	3, 68
USB.....	83
USBコネクタ.....	2, 3, 83
Windowsキー.....	8

あ行

アクセスランプ(CD/DVDドライブ)....	14
アクセスランプ(本体).....	2
アプリケーションキー.....	8
イジェクトボタン(CD/DVDドライブ) ...	14
イジェクトボタン (フロッピーディスクドライブ).....	24
【インターネット】ボタン.....	10
液晶ディスプレイ.....	2, 65
音楽CDからのデジタル出力設定.....	60
音量調節つまみ.....	60
音量の調節.....	60

か行

解像度.....	65
外部CRT用コネクタ.....	3, 67
外部ディスプレイ.....	67
外部マイクロフォン端子.....	2, 63
キーのロック.....	7
キーボード.....	2, 6
輝度.....	65
キャップスロックキーランプ.....	2
休止状態.....	37, 40
休止状態からの復帰.....	41
クリックボタン.....	4
コンピュータウイルス.....	72

さ行

サウンド機能.....	60
サウンドの設定.....	64
サスペンド.....	37
周辺機器.....	79
周辺機器の取り外し.....	82
省電力機能.....	37
省電力状態.....	37
シリアルコネクタ.....	3, 96
スーパーバイザパスワード.....	70
ズーム機能.....	5
スクロール.....	5
スクロールロックキーランプ.....	2
スクロールボタン.....	4, 5
スタンバイ状態.....	37, 40
スタンバイ状態からの復帰.....	41
スピーカ.....	2
スリープ状態.....	37
セキュリティ機能.....	70
セキュリティケーブル.....	73
増設RAMボード.....	92

た行

ディスプレイストレッチ機能	66
ディスプレイの切り替え	69
ディスプレイの同時表示	69
デバイスドライバ	80
デバイス マネージャ	iv
デュアルディスプレイ機能	69
デュアルメモリスロット	2, 26
デュアルメモリスロット アクセスランプ	2, 28
テレビ	68
電源回復(スタンバイ状態からの復帰).....	48
電源スイッチ	2
電源ランプ	2, 30
電話回線用モジュラーコネクタ	2, 57
盗難防止用ロック	2, 73
ドライバ	80

な行

ニューメリックロックキーランプ	2
ネットワークの設定	46

は行

バーチャルスクリーン機能	66
ハードディスク起動セクタ へのウイルス感染防止	72
ハイバネーション	37
パスワード	70
バッテリーアンロック	3, 35
バッテリー残量の確認	30
バッテリー充電ランプ	2, 32
バッテリーの充電	32
バッテリーパック	3, 34
バッテリーパックの交換	34
バッテリーパックのリサイクル	36
バッテリーリフレッシュ	33
パッド	4
パラレルコネクタ	3, 96
ピープ音のオン/オフ	9

光デジタルオーディオ(S/PDIF) 出力端子	2, 62
表示色	65
復帰	40
プラグ&プレイ機能	81
ブロードバンド	44
プロジェクタ	67
フロッピーディスク アクセスランプ	2, 25
フロッピーディスク ドライブ	3, 22
分岐アダプタ	57
ヘッドフォン/オーディオ 出力端子	2, 61
ホットキー機能	9
ボリュームコントロール	60

ま行

マウス/テンキーボード用 コネクタ	2, 97
【メール】ボタン	10
メモリ	92
「メモリースティック」.....	26
メモリスロット	3, 92
メモリ容量の確認	95
モデム	56, 106

や行

ユーザパスワード	70
----------------	----

ら行

レジャーーム	37
--------------	----

わ行

ワイヤレスLAN	2, 50
ワイヤレススイッチ	2, 54
ワイヤレスランプ	2, 53
ワンタッチスタートボタン	2, 10

MEMO

『パソコン機能ガイド』と合わせて使う

電子マニュアル『ばそガイド』

「ばそガイド」はパソコンの画面で見るマニュアル。パソコンに関する設定や、ソフトの使い方など、役立つ情報がつまっています。このマニュアルと合わせて使って、上手に情報を手に入れましょう。

デスクトップにある  をダブルクリックして表示できます。

このパソコンの型名や製造番号、メモリの容量など、ハードウェアに関する詳しい情報を表示します。周辺機器を買うときは、画面を印刷して持っていても役に立ちます。

ネットワークの設定、省電力の設定など、パソコンに関する設定について説明しています。BIOSの情報などもここで。

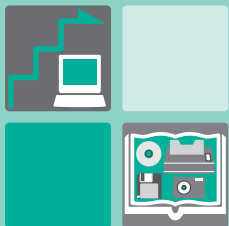
調べたいキーワードを入力して、「検索」をクリックします。

このパソコンに添付されている各ソフトの紹介、使い方を説明しています。



サポート窓口についてはこちら。

周辺機器を接続したけどうまく動かない、設定がうまくできない... 困ったときはここを参考に。



パソコン機能ガイド



リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

LaVie

このマニュアルは再生紙
(古紙率:表紙50%、本文100%)
を使用しています。

初版 2003年9月

NEC

P

853-810601-188-A

Printed in Japan



* 8 1 0 6 0 1 1 8 8 A *